

Quality is more than a word



# CSR Report

Corporate Social Responsibility Report 2010

## 編集方針

- エスペック株式会社の発行するCSRレポートは、当社が果たすCSR(企業の社会的責任)をステークホルダーのみなさまにわかりやすくお伝えし、ご理解いただくことを目的に発行しています。2010年度版は、デザインを一新し、ステークホルダーのみなさまにとってより読みやすく、わかりやすい表現に努めました。
- 本誌では、ステークホルダーのみなさまや社会の関心が高く、なおかつエスペックにとって重要な取り組みから内容を選択して企画・編集しました。特に重要と考える取り組みについては特集ページにて報告を行い、創業以来引き継いできた価値観を紹介するページを設けました。
- 企業活動の報告に関しては「CSRマネジメント」「社会性パフォーマンス」「環境パフォーマンス」の3部構成としています。
- 本誌中の「WEB」は、当社ホームページ上で関連情報を開示している旨を示しています。  
エスペックホームページ：http://www.espec.co.jp/
- 経済パフォーマンスの情報につきましては、ファクトブックをはじめとする各種IR資料をご覧ください。

## 対象範囲

### 【事業所の対象範囲】

国内エスペックグループの主要な関係会社・事業所を対象としています。ただし、すべての項目についてカバーしているのではなく、各社の規模や事業内容に応じて記載しています。

### 【事業の範囲】

当社の事業は、環境試験器、計測システム機器、半導体装置、FPD装置などを開発、製造、販売する装置事業、これら装置のアフターサービスやエンジニアリング、受託試験などのサービス事業、その他事業であり、これらの事業活動全般について報告しています。

### 【対象期間】

主に2009年度(2009年4月1日～2010年3月31日)を対象期間とし、過去より継続して実施してきた内容および直近の内容についても掲載しています。

## 準拠したガイドラインなど

- ・ 環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」
- ・ 環境省「事業者の環境パフォーマンス指標」
- ・ GRI(Global Reporting Initiative)  
「GRIガイドライン第3版(Sustainability Reporting Guidelines version 3.0)」

## 発行時期

毎年10月1日発行

## CONTENTS

TOP MESSAGE	02
企業の価値観	03
エスペック経営の特徴	04
エスペック事業の社会的役割と責任	05
特集	
1 クリーンエネルギー分野への取り組み	07
2 グリーンプロダクトへの取り組み	09
3 生物多様性への思い～長年の挑戦	11
CSRマネジメント	13
社会性パフォーマンス	
お客さまとのかかわり	15
従業員とのかかわり	17
取引先さまとのかかわり	20
株主・投資家さまとのかかわり	21
地域とのかかわり	23
環境パフォーマンス	
環境マネジメント	25
グリーンプロダクト(環境に配慮した製品とサービス)	29
グリーンプロセス(環境に配慮した工程)	32
グリーンマインド(環境教育)	33
グリーンアクション(社会貢献)	35
事業活動のマテリアルバランス	37
実績データ	38
環境会計	39

## ステークホルダーのみなさまへ

エスペックにおけるCSRの最も基本的な考え方は、事業を通じて社会に貢献することです。そもそも企業とは、人々の願いや社会の期待に応えるために存在するものであり、当社においては、「環境創造技術」をかなめに展開する事業を通じて社会に貢献しようとしています。

同時に、各ステークホルダーと常に良好な関係を築き、高める努力を続けています。透明性の高さやバランスの取れた関係は、各ステークホルダーとの良質な価値交換のために不可欠なあり方と考えています。こうした「価値交換性の向上」はエスペック経営の基本的な思想であり、CSRに通じる重要な思想でもあります。

当社にはTHE ESPEC MIND という理念があります。そこにはこのようなCSRに通じる思想があらゆる箇所に明記されています。

企業には社会を変える不思議な力があります。少し前までは、企業（経済）の発展のためには環境破壊は仕方がないと考えられていました。しかし、今ではいかに環境負荷を与えず、「持続可能な社会に貢献できるか」というテーマが優先的な課題となっています。当社は創業以来、「環境」をテーマに企業活動を行ってきました。それ故、環境に対する取り組みは常に先取的です。最近、認知度が高まってきている「生物多様性」についても、10年以上も前から事業として取り組んで参りました。さらに、世界的に大きな期待が寄せられている新エネルギー分野についても、環境試験のリーディングカンパニーとしてさまざまなニーズにお応えしていきます。

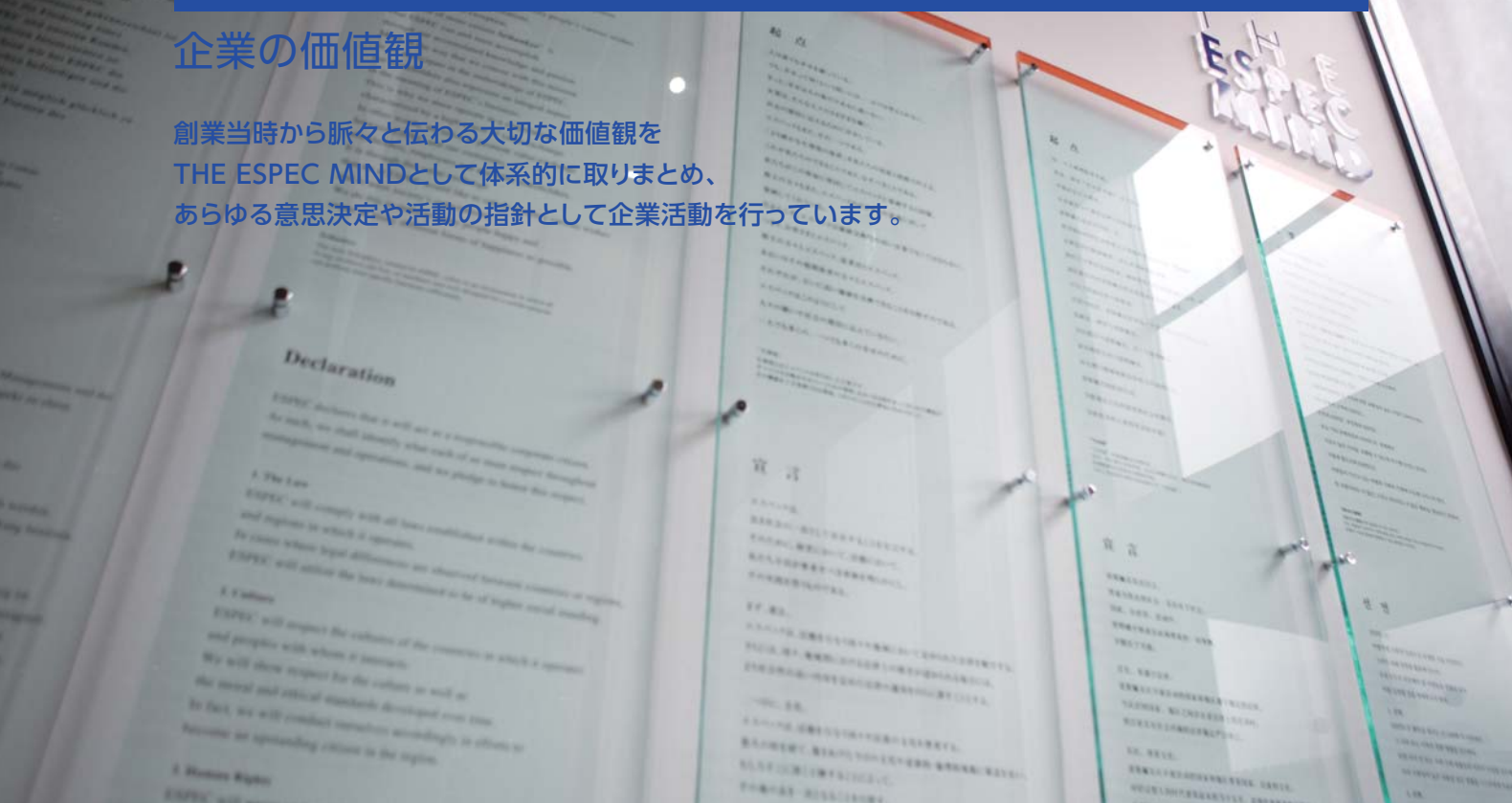
代表取締役社長

しん のぶ よし  
進 信義



# 企業の価値観

創業当時から脈々と伝わる大切な価値観を THE ESPEC MINDとして体系的に取りまとめ、あらゆる意思決定や活動の指針として企業活動を行っています。



## 起 点

そもそも企業とは公器であり、人々や社会の期待に応えるために存在するものです。エスペックも同様、「より確かな生環境を提供すること」を社会的使命として存在しています。さらに、ステークホルダーとの価値交換をより良いものにしていくことが社会的装置としての価値を高め、人々の幸せ実現の一助となると当社は考えています。このような考えをまとめたものが『起点』です。これはTHE ESPEC MINDの中でも最も思想性が高い価値観です。

## エスペックの使命/基本理念

エスペックは何者で、どのように社会に貢献しようとしているのかを明らかにしたのが「基本理念」です。当社は「環境創造技術」を核とする事業で、「より確かな生環境を提供する」ことを使命としています。生環境とは、すべての生き物が生きていくための環境、あるいは目的を持って作られた機器がその機能を十分発揮できる環境のことです。生環境という言葉は私たちが自らつくり出した言葉です。それはエスペックの事業が独創的であるからにほかなりません。

## プログレッシブ

エスペックの企業活動のあるべき姿、それは「プログレッシブ(進取的)」です。かつて先達が「環境試験器」という言葉もない時代にそのニーズを察知し、事業のかなめとしたように、「プログレッシブであること」は当社の伝統であり、企業文化としても根付いています。

## 二つの特徴

THE ESPEC MINDの特徴は「社会性」と「普遍性」です。企業は社会の良き一員でなければなりません。常に社会や人々から役に立つ、必要とされる存在でなくてはならないのですから、必然的に「高い社会性」がこの価値観に反映されています。

社会や時代は常に変化しています。企業はそれに対応していかなければなりません。企業の価値観、特に基本となる価値観は社会が変わっても、時代や場所が変わっても陳腐化することなく、否定されることもなく、だれからも共感を得られる「普遍性の高いもの」でなければなりません。THE ESPEC MINDはこれらを重視して構築されました。

## 宣 言

企業活動の範囲が拡大するなかで、順守すべきものや尊重すべきものが徐々に明確になってきました。それらは「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」です。例えば、「遵法」という考え方において、私たちは法を犯さない範囲であれば何をやってもいいという訳ではありません。法の上に常識や人々の考えといったものがあり、当社はその領域で活動を行います。また、国や地域が異なれば倫理規範などの解釈に違いが見られることがしばしばあります。その場合はより社会性が高い活動を選択し、その認識を啓発していこうとしています。「文化」「人権」「環境」においても同様に、これらの事柄を積極的に守り、育てる決意を「宣言」というかたちで社会に表明し、実践しています。

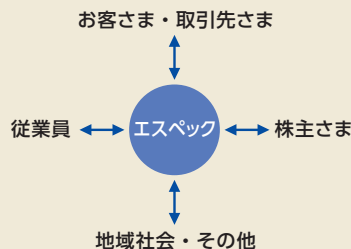
# エスペック経営の特徴

当社は事業を支える<組織経営>に重点を置いて経営を行っています。  
それは、深い思想と科学的根拠に基づいた経営理論によるものです。

## ステークホルダー・オリエンティッド

企業には、お客さま、株主さま、取引先さま、従業員、その他のステークホルダーがいて、お互いに必要とする価値を交換し合い存在しています。お客さまとは商品・サービスを提供し、それに見合った対価を、従業員とは、従業員から貢献を受け取り、それに見合った報酬をとった具合に。一般的に、米国では株主利益の最大化を目的とするストックホルダー・オリエンティッドの考え方が多いですが、当社では関わり合うすべての人とのより良い価値交換を目指すステークホルダー・オリエンティッドの考え方を採用しています。

### ●ステークホルダー・オリエンティッド



## 経営モデル

エスペックの経営は、企業活動において立地する国や地域の文化を尊重する、人の生き方やあり方に起点を置く、社会の一員であることを強く意識して社会の期待により近づく企業活動を行う、という3つの思想をモデルとして掲げています。

## 経営基盤の充実

企業活動における最も基本的なあり方を示した価値観。進むべき方向性を示したビジョン。そして企業活動を効果的に推進する活力。これら3つは経営のインフラであり、これらが充実すればするほど企業としての合理性や有機性が高まります。当社では、そのための取り組みが継続的に行われています。それが次に紹介する「経営基盤会議」です。

## 経営基盤会議

経営基盤会議は、事業を支える経営的インフラを定め、充実するための会議体です。当社では、事業経営領域と並びこの組織経営領域の向上を重視しています。

この会議体は、わが国最高の組織経営技術の専門機関とのコラボレーションによって進められています。外部の専門機関が加わることにより、より高度に、また、より客観的に、そして何よりもガバナンスの向上にも大きく役立っています。さて、この経営基盤会議では、「価値観やコンセプト」「エスペックアイデンティティ」「エスペック文化」「ビジョン」といったものを主要議題としています。また、次代を担う経営層の組織経営技術と経営スタイルの学習の場としても大きく貢献しています。



## ラウンドアップシステム

経営基盤会議で明らかにされた「企業の意思」=THE ESPEC MINDやその時々「経営の意思」は社内全体に共有され、実現、実施に移されなければ何の意味もありません。当社では、経営基盤会議においてコラボレーションする専門機関の協力を得て、全社員の価値観の共有と一体化、エネルギーのベクトルづくりに取り組んでいます。これからの時代には、今まで以上に「企業は人なり」という思想が試されると考えているからです。



# エスベック事業の社会的役割と責任

企業には自ら選択したテーマで社会に貢献する責任があります。

エスベックは「環境創造技術をかなめとした事業で、より確かな生環境を提供する」ことを使命としています。環境試験器のパイオニアとして半世紀に渡り、最先端技術の発展と信頼を支えています。

## 環境試験の重要性

技術の発展が目覚ましい現代、新技術が次々と製品に組み込まれ便利になる一方、製品はますます高度化し、複雑化しています。こうした中、環境試験の重要性はさらに高まっています。

例えば、私たちが普段乗る自動車はエンジン、ブレーキ、カーナビゲーション、パワーウィンドウからドアにいたるまで、あらゆる機能はコンピューターで管理されています。多くの電子部品が組み込まれ、ハイテク化が進んだ自動車がどのような環境下でも正常に動くためにはさまざまな段階で環境試験を繰り返して行わなければなりません。当社の環境創造技術は、温度や湿度、振動などのあらゆる環境条件をつくり出し、部品や製品の信頼性を確保しています。自動車だけでなく、航空機や

パソコン、携帯電話など、当社は次々と進化する製品の信頼性、耐久性をテストし、社会や人々の安全・安心を支えています。

最近、地球温暖化防止に向けて注目が高まっているクリーンエネルギー分野においても、当社の技術は活かされています。例えば、電気自動車やハイブリッドカーに搭載されるリチウムイオン電池の信頼性確保は急務です。また、世界的に再生可能エネルギーへのシフトが急がれる中、太陽電池パネルの耐久性試験など、当社が果たすべく役割はますます大きくなってきています。さらに当社は自然そのものを再現し復元する事業も行っており、持続可能な社会の実現を目指して活動しています。

## ● 環境試験器

温度・湿度・圧力・振動など環境要因を人工的に再現し、工業製品の信頼性や耐久性を確認する環境試験器を、多様な用途に合わせて豊富な製品群で提供しています。



恒温(恒湿)器 ブラチナスKシリーズ



高度加速寿命試験装置



冷熱衝撃装置(TSD)

## ● 計測システム機器

パワーデバイスなどの電子部品の性能を評価するために、試験の条件設定から試験の評価・分析を自動的に行うシステム機器を提供しています。



イオンマイグレーション評価システム

## ● 半導体関連装置

半導体などの電子部品に高温で電圧・電流のストレスを与え、短時間で不良品を見つけ出すバーンイン装置を提供しています。



ダイナミック/モニタードバーンインシステム

## ● ディスプレイデバイス装置

FPD(フラットパネルディスプレイ)の生産ラインで使用される焼成・乾燥などの熱処理を行う装置を提供しています。



### 環境試験の総合ソリューション

長年培ってきた「環境創造技術」をお客さまに最大限に活かしていただけるように、当社は環境試験について総合的にサポートできる態勢を整えています。お客さまの試験計画から、分析・評価、結果に対する改善提案まで総合的にサービスを提供しています。

さらに、最新の環境試験器と分析機器を取り揃えた試験所を全国4カ所に開設し、受託試験を行っています。また、製品のレンタルや、中古製品の販売、保守メンテナンス、さらに受託廃棄にいたるまで、お客さまのニーズにあったサービスを提供しています。

### 信頼・期待されるブランド

環境試験器市場では、国内においては圧倒的なシェアを誇り、高い品質と技術力で、世界中のお客さまからも長年にわたって信頼を得ています。

私たちは「さまざまな技術や知恵の集約により最良のサービスを生み出し、お客さまの新しい期待を生む」よう、常に努力しています。お客さまのニーズをできるだけ深く追求し、それに応えると同時に、お客さまの創造性をさらに高めるサービスの提供も心がけています。こうした努力が、エスペックを世界から信頼されるブランドに育てるのだと確信しています。

これからも世界中のお客さまから最も高い信頼と期待を得る企業であるよう努力を続けていきます。

●国内代理店

48社

●海外販売ネットワーク

36カ国 27社

### ●国内主要事業所



**本社**  
大阪市北区天神橋3-5-6



**福知山工場**  
京都府福知山市長田野町1-7



**宇都宮テクノコンプレックス**  
宇都宮市清原工業団地23-1



**神戸R&Dセンター**  
神戸市北区鹿の子台南町5-2-5

### ●グローバルに事業を展開

当社は環境試験の総合ソリューションを広く海外にも提供しています。世界中のお客さまにクオリティの高い製品やサービスをお届けするため、世界各国に9つのグループ企業を設置しています。



ESPEC NORTH AMERICA, INC (アメリカ)



上海愛斯佩克環境設備 有限公司 (中国)



広州愛斯佩克環境儀器 有限公司 (中国)

ESPEC EUROPE GmbH (ドイツ)  
愛斯佩克環境儀器 (上海) 有限公司 (中国)  
愛斯佩克測試科技 (上海) 有限公司 (中国)  
ESPEC (CHINA) LIMITED (香港)  
ESPEC KOREA CORP. (韓国)  
ESPEC (MALAYSIA) SDN. BHD. (マレーシア)

# クリーンエネルギー分野への取り組み

再生可能でCO<sub>2</sub>排出が抑えられるクリーンエネルギー。化石燃料に代わる有力なエネルギーとして、ますます注目が高まっています。この分野における研究はどれも最先端。エスペックの〈環境創造技術〉はこの分野でも活躍しています。

## 長寿命・太陽電池パネル共同研究に参加

2009年10月から独立行政法人 産業技術総合研究所主催の共同研究に参加しています。この研究は、太陽電池パネルの長寿命化を図るもので、当社はその信頼性試験方法の開発と、その研究における信頼性試験を受託しています。

太陽光発電をより広く普及させるためには、低コスト化はもちろん、太陽電池パネルの信頼性向上と長寿命化が必須となります。そのため太陽電池パネルに湿度や熱ストレスを人工的に与える加速劣化試験などを行い、発現する不具合要因を明確化していきます。現在の太陽電池パネルの寿命は約20年。それを2倍の40年に延ばすことを目標に、当社は信頼性分野のオーソリティとして、日本を代表する素材メーカー31社と共に研究を行っています。私たちはこうした最先端技術の共同研究にも参加し、温室効果ガス削減に向けて貢献しています。



## グリーン・イノベーションへ貢献

日本政府が今年6月に閣議決定した「新成長戦略」には、グリーン・イノベーションによる環境・エネルギー大国戦略の目標の一つとして、2020年までに「日本の民間ベースの技術を活かした世界の温室効果ガス削減量を13億トン以上とすること」とあります。この13億トンとは、日本全体の総排出量に相当します。

この実現には当然さまざまな条件が必要となりますが、企業の社会を変える力、グリーン・イノベーションへの期待が大きく寄せられていることに変わりありません。エスペックは地球の一員として、企業という責任ある存在として、グリーンエネルギー分野に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に向けてさらなる努力を惜しみません。





### 再生可能エネルギーの未来とともに

太陽から地球に降り注がれる光のエネルギーは膨大です。もし、ゴビ砂漠に太陽電池パネルを敷き詰めれば、全人類のエネルギー需要量に匹敵する発電量が得られます。地球環境に負荷を与えないクリーンエネルギーとしてますます注目を集める太陽光発電。当社は今後も需要が見込まれる太陽電池パネルの開発から製造・検査工程で使用される製品を提供していきます。大きな太陽電池パネルを試験するには、大型で、より高い加熱・冷却能力とともに、温度分布などのバラツキを抑える精度が求められます。当社の「環境創造技術」はこうした最先端のニーズにもいち早く対応し、低炭素社会の実現に向けて貢献しています。

### 技術革新の進む二次電池

何度も繰り返し充電して使用できる二次電池。その中でも注目を集めているのがリチウムイオン電池です。リチウムイオン電池はエネルギー密度が高く、小型化、軽量化に加え、継ぎ足し充電が可能な優れた特長を備えています。その反面、発熱・発火の危険性があり、試験中においてもさまざまな安全対策が必要となります。最近では、パソコンや携帯電話だけでなく、電気自動車やハイブリッドカーへの搭載に向けた開発が進められています。当社では、試験時におけるお客さまの安全性確保と製品の信頼性評価に積極的に取り組んでいます。今後もますます活用が広がる二次電池。当社はその普及に貢献することで、CO<sub>2</sub>削減の一翼を担っています。

## クリーンエネルギー分野で活躍するエスペックの製品

### 中型恒温(恒湿)器

太陽電池パネルの信頼性確保のために、太陽電池パネルのモジュール工程での温度サイクル試験や結露凍結試験などに使用されます。



### 電極乾燥機

太陽電池セル工程においてセルの乾燥・熱処理を行う装置です。安定した温度分布と太陽電池セルを自動搬送できる特長を備えた装置です。



### 恒温(恒湿)器 プラチナスKシリーズ 小型環境試験器

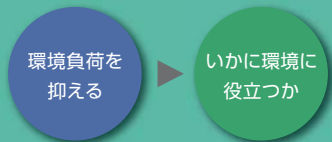
リチウムイオン電池の品質評価のために、-40℃から80℃までの温度環境下において、リチウムイオン電池の放電と充電を繰り返し行い、電池の特性を確認する充放電試験に使用されます。



環境配慮型製品

# グリーンプロダクトへの取り組み

企業活動が環境に与える影響は決して小さくありません。当社は創業以来、企業が自然環境に与える影響を最小限に抑えることに常に心を砕いてきました。こうした環境に対する考え方は、今では「いかに環境に役に立つか」という信念へと進化しています。



## 独自の基準を設け環境配慮型製品を開発しています

環境試験器は百数十度もの高温からマイナス40度以下の低温に至るまで、さまざまな環境を人工的に再現するために多くの電力を消費します。さらに、製品がその役割を終え、廃棄されるときにも地球環境に何らかの負荷を与えています。当社では製品のライフサイクル全体から環境負荷を考え、グリーンプロダクト(環境配慮型製品・サービス)の開発を進めています。

その基本となるのが「環境配慮開発設計ガイドライン」です。省エネルギーや省資源化など、配慮すべき項目を明確にするとともに、チェック項目を定めています。

また、製品の環境性能を単に省エネなどの環境負荷項目だけで評価するのではなく、製品の機能面・性能面も含め総合的に評価する基準として、2008年度に製品の環境効率を示す独自指標「Eファクター」を設定しました。新製品を開発する際の具体的な・客観的な目標指標として活用していく方針です。

$$E \text{ ファクター} = \frac{\text{品質機能ファクター (温度上昇降下時間等)}}{\text{環境負荷ファクター (CO}_2\text{)}}$$

※ Eファクター1.4以上を達成することを目標にしています。

## 環境配慮はエスペックの伝統

当社は古くから地球環境問題への関心が高く、「エコ」という言葉がまだない時代から環境に配慮した製品開発に取り組んできました。環境試験器のデファクトスタンダードでもある「プラチナスシリーズ」は1969年の開発当初、製造工程で公害を引き起こさない信念のもと表面塗装の不要なステンレスを用いた製品を完成させ、業界をリードしてきました。



初代プラチナス

1980年代、南極上空のオゾン層破壊が世界的な問題として認識されると、エスペックは「環境をテーマとする当社が環境保全に取り組むのは当然のこと」と、すぐにフロン対策推進委員会を設置。特定フロン全廃のための技術開発や製品開発、生産技術開発に着手したのです。そして恒温(恒湿)器「プラチナスシリーズ」と冷熱衝撃装置「TSA シリーズ」においては冷媒だけでなく断熱材の発泡剤まで代替フロン化を図ったのでした。

環境問題は企業の最優先課題と捉えられるようになった現在も、当社は自らに厳しい環境基準を課し、それをクリアした製品に「グリーンプロダクトラベル」を貼付し、さらなる環境配慮型製品の開発に注力しています。

## グリーンプロダクトラベル

2009年4月から当社が定める環境配慮認定基準を満たした製品に環境ラベルを貼付する「グリーンプロダクトラベル」認定制度を開始しました。この目的は、環境配慮型製品の開発促進および製品に関する環境情報の積極的な公開を目指すものです。「グリーンプロダクトラベル」はISO(国際標準化機構)で定められた環境ラベルのうち、自己宣言型(タイプII)の環境ラベル(ISO/JISQ14021)に相当するものです。



# ECOリーディング エスペックのグリーンプロダクト

## 恒温(恒湿)器プラチナスKシリーズ/エコモデル

2009年度のグリーンプロダクト認定製品が、多くのお客さまにご使用いただいている恒温(恒湿)器「プラチナスKシリーズ」のエコモデルです。最低周波数制御による新冷凍システムの搭載により、消費電力を従来器種に比べ30%以上低減し、CO<sub>2</sub>排出量も年間約30%低減を実現しました。省エネルギー化、廃棄のしやすさなどの環境負荷低減と性能、信頼性、操作性など製品価値の向上との両立を迫りました。当社のグリーンプロダクトを主力製品からお届けしています。

省エネ **30%** 以上



2009年度・グリーンプロダクト  
恒温(恒湿)器プラチナスKシリーズ/エコモデル  
PWL-4K/PL-3K/PL-2K

## 冷熱衝撃装置TSAシリーズ/エコ運転機能搭載

プラチナスKシリーズ/エコモデルと同時期、2009年度のグリーンプロダクト認定製品として登場したのが、冷熱衝撃装置TSAシリーズ/エコ運転機能搭載です。予冷運転と予熱運転を一時停止させるエコ運転機能を搭載し、デフロストフリー機能で試験時間の短縮を実現させて消費電力を従来器種に比べ20%以上低減しました。

省エネ **20%** 以上

省エネ **30%** 以上



2009年度・グリーンプロダクト  
冷熱衝撃装置TSAシリーズ  
エコ運転機能搭載



**新製品**  
2010年度・グリーンプロダクト  
冷熱衝撃装置TSAシリーズ  
Eタイプ

## 冷熱衝撃装置TSAシリーズ/Eタイプ(新製品)

2010年度のグリーンプロダクト認定製品は、冷熱衝撃装置TSAシリーズ/Eタイプです。カーエレクトロニクスやはんだ実装性評価など-40℃~+125℃の2ゾーンの冷熱試験において大幅に消費電力を削減できます。冷凍回路の効率化と、エコ運転機能の予冷・予熱開始時間設定を自動化することにより、現行器種Sタイプと比較し、消費電力30%以上低減を実現しました。

## 恒温(恒湿)室ビルドインチャンバー/Eシリーズ(新製品)

2010年度のグリーンプロダクト認定製品、恒温(恒湿)室ビルドインチャンバー/Eシリーズは、従来機種と比べて消費電力を温湿度運転時最大60%以上の低減(※1)を実現しました。さらに、省電力・長寿命のLED照明を室内にいち早く搭載したエコにこだわった製品です。消費電力の低減はもちろんのこと、操作ユニットのコンパクト化やシール材の臭気の低減、運転時における騒音の低減など、使用する方々の快適性にもきめ細やかに対応しています。

省エネ **30%** 以上



**新製品**  
2010年度・グリーンプロダクト  
恒温(恒湿)室ビルドインチャンバー  
Eシリーズ

※1 従来機種Hシリーズ(TBL-4HW)と新製品Eシリーズ(TBL-4EW)とを温湿度運転時で比較した場合の数値です。

# 生物多様性への思い ～長年の挑戦

エスペックは早くから環境に対して強い関心を持ち続けてきました。それは環境をテーマに事業を展開する企業として、当然のこと。その思いは継続して受け継がれ、今もさまざまな活動へと展開しています。

## 生物多様性とエスペックの企業活動

当社では生物多様性への取り組みを、環境負荷を減らしたり、自然環境を保全するといった活動だけに捉えてはいません。企業も人も、存在するだけで環境に何らかの負荷を与える存在であると同時に、環境に役立つことができる存在でもあります。生きとし生けるものが相互に関係しあい、うまく共生できる状態を保つために、私たちができることはまだまだたくさんあります。当社は長期的視野に立ち、自らが選択した事業（社会的役割）を通じて持続可能で素敵な社会の実現を目指しています。



## 自然の再生

「環境をつくり出すのは、試験器の中だけではない」極寒の世界、灼熱の世界、成層圏に至るまで、あらゆる環境を人工的に作り出してきたエスペック。環境問題が徐々に深刻化するなか、環境を試験器の中の小さな世界だけに捉えるのではなく、私たちが生きるこの地上に「自然環境そのものをつくり出す」ことの重要性に気付いたのは、1980年代始めの頃です。当時は、ほとんどの人が環境問題を公害というレベルでしか認識していませんでした。そんな時代に、「私たちは土壌や植生など、考えられる限りの自然環境を再生し、生体機能や環境汚染のメカニズムを研究解明する態勢を整えなければならない。自然環境保全に関わるあらゆる人、技術、情報を集約し、社会に、地球に貢献していかなければならない」と考えて行動に移してきたのです。その活動の一環が「森づくり」や「水辺づくり」です。



## 自然の森と水辺づくり

私たちはその土地に根ざした植物の苗木を植え、日本各地に森を作ってきました。同時に、川や池のほとりにチガヤやセキショウなどの植物を植え、自然の河川に再生させたり、ビオトープを作っています。

地球環境問題に早くから取り組んできた私たちは、森や河川の連環とそこに生息する生物の多様性についても早くから注目し、自然再生に役立てています。



## 植物工場

私たちは「食の安全」にも早くから取り組んできました。気候変動は食糧危機を引き起こしかねません。また、大量生産のために大量の農薬が使用されることによって、人体だけでなく、生態系にも悪影響が及んでいることが明らかになってきています。植物工場は、無農薬でかつ安定供給を可能とし、さらに生産履歴の管理が行き届くためトレーサビリティの向上にも役立ちます。私たちは植物工場に対するさまざまな意見にもしっかり耳を傾け、その可能性を探っていきます。



### ●波佐見授産場に納入

長崎県にある「波佐見授産場」。ここにコンテナ式植物工場を設置し、ここで働く方々が野菜を栽培しています。



### ●上海万博(大阪館)に出展

上海万博(大阪館)に出展している植物工場(大阪府立大学)では、株式会社椿本チエインさまが設計製作を担当し、グループ会社のエスペックミックが植物の育成に必要な環境を人工的に設定する技術を提供しています。



## プラントセラー

「プラントセラー」は、太陽光の代わりに蛍光灯やLEDなどの照明を使用し、温度、湿度、二酸化炭素、養液を制御して植物を育てる完全制御型の植物育成装置です。コンパクトサイズのため、店舗やレストランなどの狭い場所でも無農薬で新鮮な野菜を栽培できます。



### 栽培できる野菜

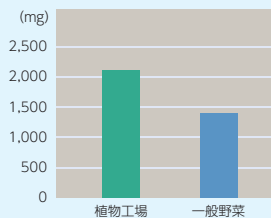
- レタスや小松菜などの葉菜
- ラディッシュのような小さい根菜
- バジルやイタリアンパセリなどのハーブ類



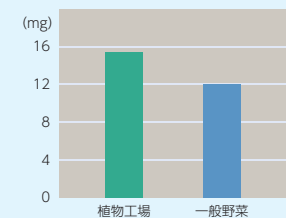
### 栄養価の比較

- 植物工場や「プラントセラー」で栽培された野菜は最適な環境で育つため、一般の野菜と比べて栄養価が高い。

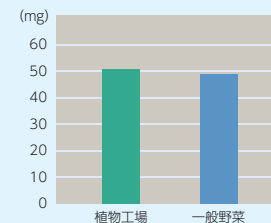
#### ●カロチン含有量の比較



#### ●ビタミンC含有量の比較



#### ●カルシウム含有量の比較



出所：日本食品分析センター

エスペックは、コーポレートガバナンス体制の強化や、コンプライアンスの推進、リスクマネジメント、内部統制システムの構築・運用などに継続して取り組むことで、より社会性・

透明性・効率性の高い企業の実現を目指しています。

## コーポレートガバナンス

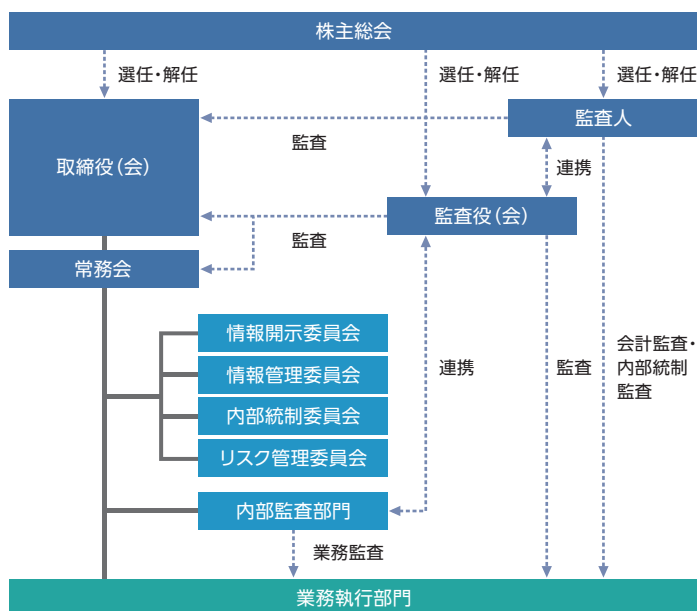
### 基本的な考え方

企業は人々のさまざまな願いや社会の期待に応えるための役割や機能を果たす社会的な装置であるという「企業は公器」との考えのもと、ステークホルダーのみならずより良い関係を築き、より高い価値を提供することで「価値交換性の高い企業」を目指しています。この考えを踏まえて事業活動を行うにはコーポレートガバナンスの確立は不可欠であり、コンプライアンスの確保と、透明性・効率性の高い経営体制の確立を目指しています。

### コーポレートガバナンス体制

当社は監査役会設置会社であり、監査役は毎月開催される取締役会や重要会議体に参加し、適正な監査を行っています。2010年6月末現在、取締役は社外取締役1名を含む7名、監査役は社外監査役2名を含む4名で構成しています。取締役の任期は1年とし、経営責任の明確化を図っています。また、社外監査役1名を東京証券取引所、大阪証券取引所の定めに基づく独立役員に指定し、両証券取引所に届け出ています。

#### ■ コーポレートガバナンス体制



## コンプライアンス

### 基本的な考え方

単に法を順守するだけでなく、社会規範を尊重し、社会の常識や道徳観・倫理観に反しない企業活動を心がけています。また活動を行う国や地域によって法律上に格差がある場合には、より社会性の高い内容を定めた法律の適用を自らに課すこととしています。こうした思想は、THE ESPEC MINDの『宣言』や『経営理念』などに明記されています。

### 「エスペック行動憲章・行動規範」の浸透・周知徹底

「エスペック行動憲章・行動規範」の社内への浸透・周知徹底を図るため、ホームページに掲載し、社内外に公表するとともに、研修や常時携帯するための小冊子の配布を行っています。

2009年度は、エスペックグループの全社員を対象に、「エスペック行動憲章・行動規範」の再徹底を図るため、上司が講師となり部門単位での勉強会を実施しました。

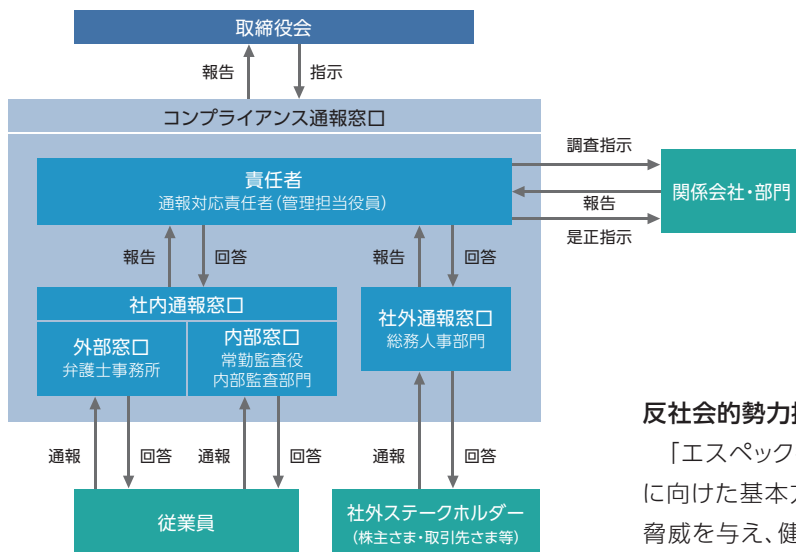


「エスペック行動憲章・行動規範」小冊子

### コンプライアンス通報窓口の設置

「コンプライアンス通報規定」を制定し、社員はもとより、お客さまや取引先さまなど社外の方からも広く通報を受け、コンプライアンス通報窓口を社内外に設置しています。通報内容については、窓口・調査関係者以外には秘密を厳守します。また、脅迫など不正な目的で通報が行われた場合を除き、通報を行ったことを理由とする本人への不利益な取り扱いは一切行いません。これにより、不正行為等の未然防止および早期発見・解決を図り、コンプライアンス体制のさらなる強化に努めています。

## ■コンプライアンス通報体制



けること]を内部統制に関する基本方針として定めています。

2009年度は、リスク管理委員会の下部機関としてワーキンググループを設置し、より具体的なリスクの評価・対策を進めてきました。なお、外部監査において、内部統制の運用評価は適切で、不備・重要な欠陥がない旨の監査結果を得ています。

## 反社会的勢力排除に向けた取り組み

「エスベック行動規範」において、反社会的勢力排除に向けた基本方針として、社会の秩序や安全の維持に脅威を与え、健全な経済活動を阻害する反社会的勢力や団体には毅然とした態度で臨み一切の関わりを持たず、不当な要求を受けた場合も金銭等による妥協をしないことを定めています。

また、対応統括部門および不当要求防止責任者を設置するとともに、外部専門組織との連携体制を構築しているほか、「反社会的勢力対応マニュアル」を策定し、社内への理解浸透を図っています。

## 感染症への対応

新型インフルエンザの流行が懸念された段階で、政府の指針に沿って対応マニュアルを策定しました。

2009年5月には、世界的な感染拡大を受け、感染拡大国への出張禁止、社員や家族の感染が確認された場合の対応などについて社内に周知徹底を行い、その後も状況に応じた対応を行ってまいりました。また、国内各事業所および関係会社にマスク等の備え置きを行い、現在も感染予防の一環として、各事業所の受付に消毒液を設置しています。

## リスクマネジメント

### リスク管理の強化

当社はリスク管理委員会を設置しており、全社的なリスクの識別・評価は、所管部門や検討部会で実施し、その結果をリスク管理委員会で審議・承認しています。

個別リスクについては、関連諸規定・付議基準に基づき取締役会や関連会議体で評価したうえで対応策を検討・決定し、所管部門で対応を行います。また、これらの対応内容を「リスク管理規定」に定め、共有化を図っています。なお、リスクが顕在化した場合には、「危機対応規定」に基づき適切・迅速に対応します。

### 情報管理体制

情報管理体制については、情報セキュリティの確保と情報の有効活用を目的に、情報管理規定として「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ管理規定」「個人情報保護規定」を制定し、徹底を図っています。

### 内部統制システムの構築・運用

「意思決定および業務執行が、法令・定款・社内規定を順守し適正に行われるために必要な体制・制度を整備し、社会やステークホルダーに信頼される会社であり続

## お客さまとのかかわり

エスペックでは、製品の販売からアフターサービス・廃棄まで、お客さまに信頼と満足を提供し続けていけるよう、さまざまな取り組みを行っています。

### 製品・サービスの品質保証

「遵守と継続」を基本方針に、製品とサービスの品質向上に取り組みました。

#### 品質方針

当社は、お客さまが品質保証活動で使用される環境試験器を提供しており、当社製品のクオリティがそのままお客さまの製品のクオリティに直結していること、また、その重責を担っていることに、私たちの存在意義があると考えています。当社は、「お客さまへ安全、快適、確実に使命を果たす、より確かな製品とサービスの提供を行う」を基本理念として掲げ、グローバルカスタマーの期待に応える高品質製品の実現に向けて取り組んでいます。

#### 品質保証体制

企業のグローバル化に対応すべく、国内外においてEQA (ESPEC Quality Assurance) と呼ばれる独自の品質保証体制を確立し、活動を行っています。

また、1993年に国内他社に先駆けて品質国際規格「ISO9001」の審査・登録を行い、その後2008年ISOの改正を受けて、品質保証体制の継続的改善を実施し、エスペック製品のさらなる品質向上に努めています。

2009年度は、基本方針に「遵守と継続」を掲げ、仕組みの遵守と継続の仕掛けにこだわったゆるぎない品質体制の確立に、製品品質とお客さま対応力の側面から取り組みました。クオリティの高い製品の提供と国際レベルでの品質保証体制により、お客さまの信頼・要望にお応えしています。

#### QMC活動

2006年度より、これまで生産現場を中心としたQC活動を、日常業務の中から顧客満足向上・付加価値創造の実現を目指す「小集団活動」へと転換し、QMC (Quality Management Circle) 活動として実施しています。QMC活動は、生産部門だけでなく、営業・スタッフ部門から開発部門までを対象とした全員参加型の小集団活動であり、「全てはお客さまのために」という視点で、全社をあげて取り組んでいます。

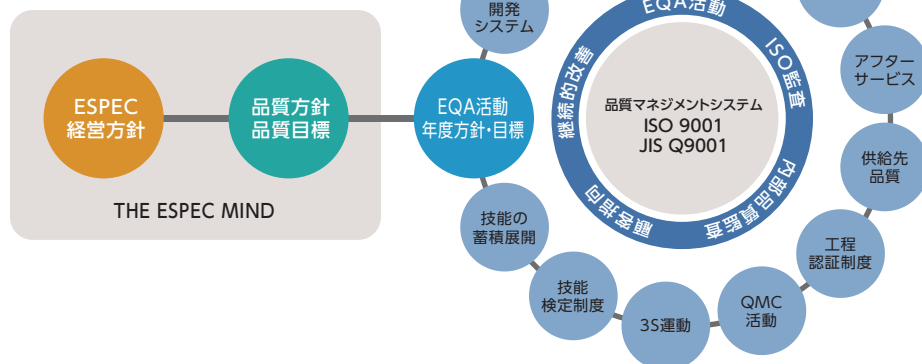
2009年度は150チームがさまざまなテーマで改善活動に取り組み、品質改善やコスト削減、業務効率の向上など大変高い成果を得ることができました。

#### クリーンサービス活動

毎年新入社員研修の一環としてお客さまの要望調査および製品の無償簡易点検・清掃活動(クリーンサービス)を実施しており、お客さまから高い評価をいただいています。

2009年度は東京、名古屋、大阪の3拠点で約1ヶ月間実施しました。この成果を社内発表会で報告し、各担当部門へフィードバックすることで、お客さまの声を反映させた製品・サービスの提供に努めています。

**EQA活動** ESPEC QUALITY ASSURANCE  
品質方針、品質目標の達成のため、全部門が相互の関係を密に行う品質保証活動



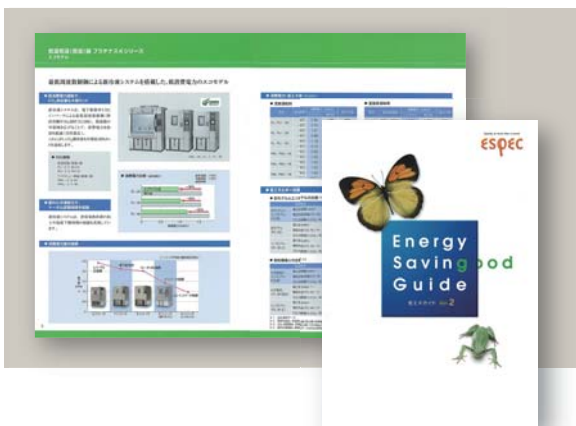


## お客様の満足に向けて

お客様のニーズに対応した  
さまざまな提案を行いました。

### 省エネガイドの発行

「省エネガイド」第1号を発行し、既にお使いいただいている当社製品を上手に活用することで、より消費電力を削減できる方法をお客さまに提案しました。続けて発行した「省エネガイド」第2号では、消費電力を大幅にカットした環境配慮型製品の紹介と、既存製品の改造による省エネ化の紹介を行い、お客さまの環境負荷低減に貢献できる提案を積極的に行いました。



省エネガイド

## お客さまへのソリューション提供

お客様の課題解決に役立つ  
付加価値情報の提供を行っています。

### 信頼性セミナーの開催

お客さまへの信頼性試験における有益な情報を提供する活動として昨年に引き続き信頼性セミナーを開催しました。2009年度は東京・豊田・大阪の3拠点で開催し、合計170名のお客さまにご参加いただきました。



信頼性セミナー

### 信頼性試験情報サイト[Test Navi]の開設

2009年7月に信頼性技術の専門情報サイト[Test Navi]を開設しました。お客さまの課題解決に貢献しようと、信頼性試験の基礎知識や実務に役立つ技術情報、信頼性試験動向などをタイムリーにお届けしています。

■Test Navi <http://www.test-navi.com>

## カスタマーサポート

予防保全活動と24時間受付サービスで  
お客さまに安心をお届けします。

### カスタマーセンター

全国のお客さまや代理店さまのお問い合わせにダイレクトにお応えするカスタマーセンターを設置しています。2009年度は、蓄積した資料をPC端末で検索しやすくし、お問い合わせの回答時間の短縮や内容の正確性の向上に取り組みました。また、オペレータのモニタリングにより、応答の品質向上も目指しています。代理店さま向けには、専用ホームページのコンテンツを充実させるとともに、メールマガジン『WEB-COS News』の発行を始めました。2009年度は、製品仕様や技術問い合わせ、資料請求など、8,994件について対応しました。

### アフターサービス体制

研究開発や生産工程でご使用いただいている当社製品は、些細なトラブルもお客さまに多大なご迷惑をおかけします。全国に17拠点のサービスネットワークを構築し、フィールドでのサービスデータに基づいた最適な予防保全活動と24時間受付サービスを行うなど、お客さまに安心・安全をお届けしています。

また、サービスマンに対するアンケート調査・分析を毎年実施し、2009年度は「整理整頓」、「訪問時間」や「対応スピード」などにおいて高い評価をいただきました。この結果をサービスマンの教育や業務改善に反映させ、アフターサービスの向上に役立てています。製品突発故障時の修理対応速度として、1日以内完了80%を目標(2009年度実績82%)に、これからも迅速なサービス対応に取り組んでいきます。

# 従業員とのかかわり

「エスベック行動憲章・行動規範」において、基本的人権の尊重、差別的待遇の排除、プライバシーの保護、雇用における機会均等および人権侵害行為への対処などを明記し、周知徹底を図るとともに、より良い職場環境づくりに取り組んでいます。

## 人事方針・制度

「役割と成果」「選択と自己責任」を基軸とした自己実現と働きがいを創出する人事制度の構築に努めています。

### 人事方針

会社の盛衰は「人」で決まります。会社にとって「人」が中心であり、「人」重視の経営こそが会社発展の原動力です。社員が働いて、楽しいエキサイティングな会社でありたい。社員が主役の会社でありたい。というのが基本的な考え方です。

また、高い生産性と品格を兼ね備え、チャレンジ精神に富む良質な人材の開発・育成に取り組むことで、「社員能力・活力の最大化」を目指していきます。

### 自己実現と働きがいを創出する人事制度

「役割・成果主義」および「選択と自己責任」の2つを基軸として、役割と成果に応じた、メリハリと透明性・公平性のある処遇システムにより、一人ひとりの「自己実現」を可能にする、「働きがい」のある人事制度の構築に努めています。

#### ●コース選択制度(勤務地限定選択制度)

家庭の事情や価値観・労働観により異動を限定的にすることを望む社員に対し、勤務地限定の選択肢を付与する制度です。2010年3月末現在におけるコース選択状況は「転勤あり(海外含む)」が73%、「勤務地域限定」が27%となりました。

#### ●社内公募制度

新規事業や戦略プロジェクトの立ち上げに際し、ミッションの内容や求める人材像、応募資格を社内ホームページに公示し、参画を希望する社員を広く募集する制度です。

#### ■社内公募制度—過去の実績

	募集人数	応募人数	登用人数
利用者数	55名	68名	28名

(2002~2009年度 制度実施計9回)

## コミットメントセッション(目標管理面談)の実施

全社員を対象とした目標管理面談「コミットメントセッション」を定期的の実施しています。社員一人ひとりの目標設定や業務上の課題、今後のキャリアビジョンなどについて、本人と上司が話し合うことで、部門におけるベクトル合わせ、およびコミュニケーションの円滑化を目指しています。面談内容は記録シートに記入し、提出することを義務づけています。記録シートの提出を促すことにより、面談の実施率向上を図っています。

## メンター制度の導入

2008年度より、豊富な経験・スキルを持った先輩社員(メンター)が、経験の浅い若手社員(メンティー)と対となって、業務指導から精神面のフォローまでを一定期間行うメンター制度を導入しました。これにより、未来を担う人材の能力開発、教育文化の醸成、コミュニケーション能力の向上を図っています。

2009年度の対象者は30組60名で、主体性の向上や職場全体のフォロー体制の確立など、さまざまな成果を得ることができました。また、活動の総括として、各職種のメンター、メンティーだけでなく、社長、管理担当役員を交えた報告会を座談会形式で実施し、その様子を全社員へ発信することで、職場だけでなく「会社全体で人を育てる」企業文化を醸成しています。



メンター制度報告会

## 社員表彰の実施

1991年より毎年、特許・実用新案の取得や行政、加入団体等からの表彰など、精励・功労の著しい社員を他の範としてたたえる社員表彰を行っています。

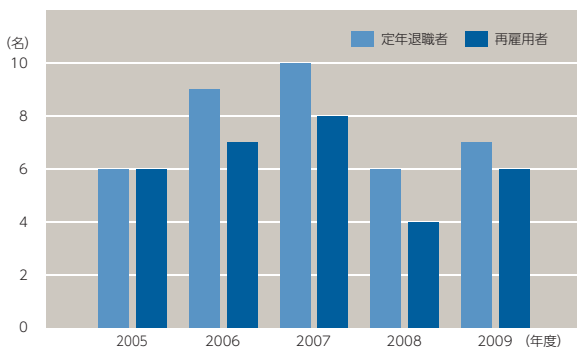
## 多様性の尊重

年齢や性別など社員一人ひとりの多様性を尊重した職場づくりに取り組んでいます。

### 定年退職者の再雇用

知識・知恵・技能の伝承ができるように定年退職者の再雇用制度を導入しています。再雇用制度によって、公的年金の支給開始年齢の引き上げに合わせ、段階的に65歳までの雇用を確保するようにしています。

■再雇用者数



### 障がい者の雇用

障がいのある方が9名勤務しています(2010年3月末現在)。障がい者を、その能力や適性に応じてできるだけ多く雇用できるように、今後も継続して職場環境の改善や職務の見直しなどに取り組めます。

### 女性の管理職登用

管理職は男性が182名、女性が4名です(2010年4月1日現在)。女性管理職比率は約2%ですが、管理職登用の条件については、男女雇用機会均等法を順守し、性別による格差は一切設けていません。そのため少しずつではありますが、管理職を目指す女性が増加傾向にあります。女性管理職の増加が組織の活性化につながるよう、計画的な育成と登用を行っていきます。

## 快適な職場環境づくり

社員の安全・健康に配慮した快適で働きやすい職場環境の維持・向上に取り組んでいます。

### ワーク・ライフ・バランスマネジメント

2006年度より改正労働安全衛生法を拡大適用し、単月の時間外労働時間が80時間を超える社員に対して医師による面接指導を義務づけています。また、家庭と仕事のバランスを考慮し、有給休暇計画取得制度やフレックスタイム制度を導入しています。

さらに、次世代育成支援策の一環として、正社員だけでなく契約社員においても育児休業や短時間勤務制度の活用を推進しています。2010年3月末までに延べ59名が育児休業を取得し、延べ28名が育児短時間勤務を選択しており、2009年度では5名が育児休業、2名が育児短時間勤務を利用開始しました。

### セクハラ・差別行為に関する連絡・相談窓口

セクハラやその他の差別待遇・いやがらせ行為等について、社員からの連絡・相談を受け付ける窓口を設置しています。本窓口では、男性・女性それぞれ1名ずつ担当者を設けています。

### メンタルヘルスケアの推進

心の健康問題への対策として、社員とその家族を対象としたメンタルヘルスケア制度を導入しています。WEB上のストレス診断で毎月自己の状況を確認するほか、eラーニングによるメンタル知識の向上を図り、自己予防を推進しています。また、電話やWEB、面接による相談窓口を設置しています。

ストレス診断の結果は、組織単位で分析し、管理職向けの研修を行うなど、快適な職場環境づくりに向けた取り組みへとつなげています。さらに、退職後の復職時についても専門家のアドバイスを交えた支援を行うなど、うつ病などの心の健康問題の予防・早期発見に努めるとともに、発症時の専門的ケアを行っています。

**安全衛生活動**

安全衛生活動を遂行するうえで関連する法令の順守はもとより、「安全衛生管理規定」に基づく運用や倫理的見地を重視した自主的な取り組みを推進しています。

主要事業所ごとに安全衛生委員会を設置し、委員による事業所内の安全パトロールを行うなど、労働災害の撲滅、労働環境の改善に努めています。また、交通事故防止の対策として、安全運転適性検査の実施や安全運転講習会による啓発活動に取り組んでいます。

2009年度の当社の労働災害発件数は0件（製造業平均：0.99件/百万時間）で、連続無災害日数（不休災害を除く）は1,707日となりました（2010年3月末現在）。

社会問題となったアスベストへの対応については、全事業所のアスベスト使用状況と飛散性アスベスト使用箇所の飛散対策実施の確認を行っています。

■安全衛生活動の目標と実績

	目標	2007年度	2008年度	2009年度
労働災害（不休災害を除く）	0件	0件	0件	0件
健康診断受診率	100%	98%	99%	97%
車、バイク、自転車による人身事故	0件	4件	8件	2件
車、バイクによる自責事故	0件	30件	23件	14件

**福利厚生**の充実

●**選択型福利厚生制度「カフェテリアプラン」の導入**

社員の多様なニーズへの対応や、より公平な福利厚生サービスの提供を目的として、2007年度から自身で必要なサービスを選択できる制度「カフェテリアプラン」を導入しています。この制度により、育児や介護、学習、旅行など多様なメニューから割引サービス等を受けることができます。

●**資産形成の支援**

財産形成貯蓄制度では、社員の積立額に対して定率を奨励金として会社より支給しています。また、従業員持株会では、会員の拠出金に対して定率の奨励金を会社より支給するなど社員の資産形成を支援しています。

**従業員とのコミュニケーション**

会社と従業員の双方向のコミュニケーションにより、良好な労使関係の構築に取り組んでいます。

**社長メッセージ**

社内ホームページ上に、社長メッセージを定期掲載しています。社長の考えや戦略の進捗などを全社員にタイムリーかつダイレクトに伝えることで、経営層と現場のベクトル・価値観の共有化を図っています。

**社内業績説明会**

会社と従業員の双方向のコミュニケーションを重視した経営を行っています。

2009年度からは、会社の現状についての理解浸透を目的に、社内業績説明会の定期開催を開始しました。説明会では、業績や今後の課題・戦略などについて社長から説明を行うとともに、社員からの意見・要望を経営にフィードバックしています。

**労使関係**

当社の労働組合はユニオンショップ制をとっており、組合員は698名、組合員比率は78.5%となっています（2010年3月末現在）。労働組合とは労働協約のもと相互信頼に基づいた健全な労使関係を維持し、対等の立場でさまざまな労使課題に取り組んでおり、毎月「労使協議会」を開催し、情報・意見交換を行っています。



労使協議会

# 取引先さまとの かかわり

製品・サービスの品質向上において、取引先さまとの信頼関係が重要であると考えています。そのために、エスペックでは、取引先さまのみならず、みなさまとの長期的かつ発展的な関係づくりに力を注いでいます。

## 取引先さまとのより良い関係を目指して

コンプライアンスの徹底や  
事業継続マネジメントの取り組みなど、  
取引先さまとの価値観の共有化と  
信頼関係の醸成に取り組んでいます。

### 基本方針

当社は取引先さまと良好なパートナーシップを構築し、相互発展できる関係づくりを重視しています。取引においては、関係法令・法規を順守し、公正・公平な取引関係のもと、グローバルな観点で国内外から必要な資材・サービスなどを適切な品質・価格・納期・環境への配慮などを総合的に判断し調達していきます。

### 「下請代金法」への対応

資材調達において「下請代金支払遅延等防止法（下請代金法）」の順守を徹底することを目的とした取り組みおよび社内教育を行っています。2009年度は、社内独自に作成した下請法チェックリストに基づく内部監査を実施し、懸案事項に対し必要な措置を講じることで、違反行為を未然に防ぐ活動を行ってきました。また、購買担当者だけでなく、取引先さまと関係のある部署・グループ会社の責任者を対象に下請代金法講習会を開催し、下請取引を適正に行える体制の強化に取り組んできました。



下請代金法講習会

### 事業継続マネジメントの取り組み

地震や火災といった自然災害や取引先さまに不測の事態が生じた場合に、お客さまへのサービス提供の影響を最小限にするための取り組みを行っています。

2009年度は、当社資産の金型を貸与している取引先さまの現場・現物確認や実際に部品が製造されている現場の実態調査を行うなど、不測の事態が生じた場合でも安定調達ができるよう情報の収集を行いました。

### 「エスペック共栄会」の運営

1981年より取引先さまと当社との相互信頼の構築および共存共栄を目的とした「エスペック共栄会」を組織し、41社の取引先さまに参画いただいています（2010年3月末現在）。

2009年度は経営やコスト戦略のセミナーや工場見学、QCサークル活動に関する勉強会を実施しました。また、良好なパートナーシップの構築に向けて、取引先さまの実務担当者と当社購買担当者との交流イベントも行っています。

### 「エスペック優良取引先表彰制度」の実施

多大なご協力を賜った取引先さまに対して、感謝の意を表する「エスペック優良取引先表彰制度」を導入しています。

2009年度は、優秀賞2社・特別賞1社の取引先さまを表彰させていただきました。



優良取引先表彰

### グリーン調達の実施

2000年に「エスペックグリーン調達基準書」を制定し、資材調達先に対するグリーン調達を実施しています。グリーン調達取引先の認定基準には「ISO14001」あるいは環境省が策定した「エコアクション21」の認証取得または「エスペック・エコ・スタンダード」による環境保全活動の実施を求めており、実現のために講習会や現地指導を行っています。

2009年度は「エスペックグリーン調達基準書」の改訂や、RoHS規制対応強化等、取引先さまのグリーン調達対応向上のための活動に取り組みました。その結果、当社登録部品点数の81%を占める116社の取引先さまがエスペックグリーン調達取引先の認定基準を満たしています。

# 株主・投資家さまとの かかわり

エスペックは、「ステークホルダーへの実直なアカウンタビリティ」を経営理念に掲げ、常に誠実・正直に説明責任を果たすことをポリシーとしています。IR活動においてもこの考えを踏まえ、適時適切な情報開示や説明会・IRツールの充実などに積極的に取り組んでいます。

## 株主・投資家さまとのコミュニケーション

迅速かつ適切な情報開示を経営の重要な責務と認識し、良好なコミュニケーションの醸成に努めています。

### 情報開示の方針・体制

会社法・金融商品取引法等関係法令、証券取引所のできる適時開示規則等に従って、情報開示を行っています。また、同規則に該当しない情報についても、当社を理解いただくうえで役立つ情報は、積極的かつ公平に情報を開示していきます。

社内体制としては、情報開示委員会を設置し、任意開示情報も含めた開示情報の内容・時期・方法などを審議することで、適時適切な情報開示を実施しています。また、情報開示を行う者（スポークスマン）を限定することで情報の一元化に努めるとともに、ホームページへのタイムリーな情報掲載により、株主・投資家さまへの公平かつ迅速な情報開示を行っています。

### 開かれた株主総会の実現に向けて

株主総会を株主さまと直接対話のできる貴重な機会であると考え、より多くの株主さまにご参加いただけるよう、集中日を避けて開催しています。

2009年度は6月24日に開催し、124名の株主さまにご出席いただきました。



株主総会

## 機関投資家・証券アナリスト向け会社説明会

機関投資家・証券アナリストの方を対象とした決算説明会を実施しています。説明会には社長と取締役が出席し、業績や戦略などについて説明しています。

また、個別ミーティングにつきましても東京・大阪を中心に随時行っており、2009年度は約100回実施しました。



決算説明会

## IRツールの充実

株主通信やファクトブック、ホームページのIRサイトなどのIRツールの充実に継続的に取り組んでいます。

IRサイトでは、決算説明会の資料や各種財務データ、株主・株式情報など、みなさまに当社を理解いただくために役立つ情報を積極的に掲載しており、2009年4月には、見やすさと操作性の向上を目的としてIRサイトのセミリニューアルを行いました。また、IRサイトに新たな決算情報やニュースリリース、IR資料などを掲載した際に、国内および海外の投資家さまにタイムリーにお知らせする情報配信活動も行っています。

## IRサイトに対する社外評価

当社のIRサイトは、大和インベスター・リレーションズ株式会社が主催する「インターネットIRサイト優秀企業賞」を5年連続で受賞しました。これは、大和インベスター・リレーションズが、主要上場企業（2009年度：2,082社）のIRサイトをリサーチし、独自のコンテンツ評価基準に基づき定量的に採点し、選定されているものです。また、日興アイ・アール株式会社が主催する「全上場企業ホームページ実態調査充実度ランキング」においても、3年連続で数ある国内全上場企業（2009年度：3,779社）の中から「最優秀サイト（総合ランキング）」として選定されるなど、当社のIRサイトは非常に高い評価をいただいています。



■ IRサイト <http://www.espec.co.jp/corporate/ir/ir.html>

### 経営へのフィードバック

市場からの貴重な意見・評価を経営にフィードバックし、さらなる企業価値の向上に取り組んでいます。

#### 株主・投資家さまアンケート

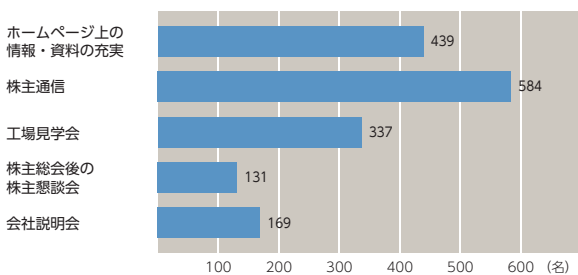
当社は、会社説明会開催時などにおいて投資家さまからご意見をいただくほか、株主通信の送付にあわせて株主さまを対象としたアンケートを実施しています。また、この株主通信のアンケート結果については、中間株主通信において報告しています。

2009年度は、1,405名の株主さまからご回答をいただきました。

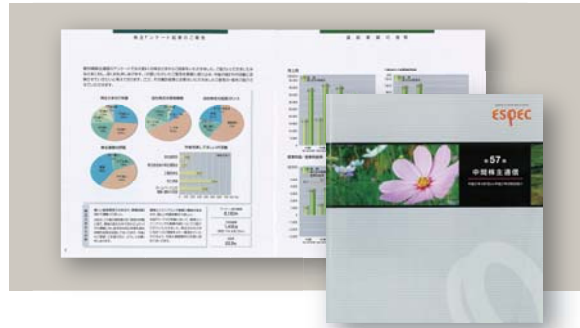
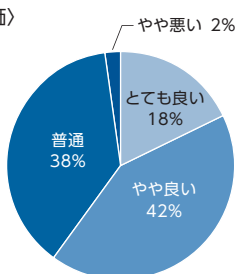
#### ■ 株主アンケート結果 (2009年6月実施)

回答者総数: 1,405名(男性: 74% 女性: 26%)  
回答率: 22.9%

〈今後充実してほしいIR活動〉(複数回答可)



〈株主通信の評価〉



株主アンケート報告 (中間株主通信)

#### 市場評価のフィードバック

会社説明会や株主通信送付時に行ったアンケートの分析結果、および個別ミーティングで伺ったご意見などを「IRレポート」としてまとめ、随時発行しています。この「IRレポート」は取締役会で報告を行っており、市場の評価を社内にフィードバックすることで、課題を浮き彫りにし、今後のIR活動や経営の質の向上に努めています。

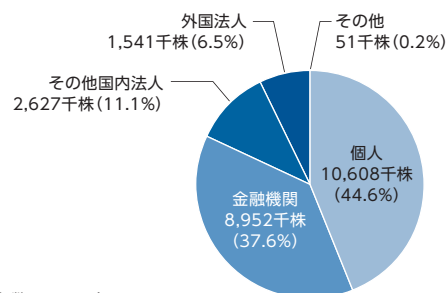
### 株主さまへの還元

2009年度の業績は当期純損失となりましたが、継続性を重視し、株主さまへの配当を実施しました。

#### 株主さまへの還元

当社は、株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題の一つと認識するとともに、永続的な企業価値の向上が株主価値向上の基本であると考えています。2009年度の連結業績は当期純損失となりましたが、継続性を重視し、株主さまへの配当を実施しました。

#### ■ 株主構成比 (2010年3月末現在)



株主数: 6,142名

発行済株式の総数: 23,731,256株(自己株式50,138株を除く)

## 地域とのかかわり

エスペックは「良き社会の一員」として、積極的に社会貢献活動に取り組むとともに、一人ひとりがその意義を認識し、社会貢献を重んずる企業風土の醸成に取り組んでいます。

### 地域とのコミュニケーション

透明性が高く、開かれた存在であるために、さまざまな活動を通じて地域のみなさまと交流を持ち、相互理解に努めています。

#### フューチャーラボ(展示館)の運営

宇都宮テクノコンプレックスでは太陽光発電施設の隣に、「フューチャーラボ」(展示館)を設置しています。ここでは、太陽光発電や燃料電池の模型、パネル展示、環境関連文献などに実際に触って体験していただくことができます。2009年度の来場者数は579名で、これまでに延べ7,793名と大変多くの方々にご来場いただいています。



宇都宮テクノコンプレックス/フューチャーラボ



ソーラーカー乗車体験



フューチャーラボ内部

### 環境問題の理解促進のための講演

東京都豊島区内の31小中学校で実施された「学校の森づくり」事業に参加し、区立長崎小学校にて地球環境問題や身近に起こっている環境破壊の実態の解説とこれから実施する学校の森づくりの意義について講演を行いました。



東京都豊島区立長崎小学校にて

### インターンシップ

大学生や専門学校生、高校生をインターンとして、毎年、受け入れています。福知山工場では6名の高校生に製品部品の準備や組立て作業を体験していただきました。エスペックミックでは自然環境を専攻する学生に「森づくり」「水辺づくり」を学んでいただきました。



インターンシップ

### 中学生の職業体験受け入れ

毎年、環境に関心のある中学生を職業体験として受け入れています。樹木や水辺の植物の苗木入れ替えなどを通じて自然環境の大切さを学んでいただきました。



職業体験受け入れ



### ボランティア活動

毎年、大阪府肢体不自由者協会の協力を得て、労働組合の上部団体JAMの主催による社会奉仕活動に社員を派遣しています。

この活動は、大阪府全域から肢体の不自由な方々をお招きして、遊園地や水族館、海洋クルーズ等で、安全かつ楽しい一日を過ごしていただくための手助けを行うもので、エスペック労働組合として毎年この活動に参加しています。ささやかな活動ですが、今後も積極的に参加していきたいと考えています。

### 地域清掃活動

世界環境デーである6月5日を含む1週間を「エスペック環境ウィーク」と定め、事業所周辺の通勤路や近隣公園などで、地域清掃活動を実施しています。

2009年度は全国24事業所、延べ565名の従業員が参加し、約16tのゴミを回収しました。

### 京都モデルフォレスト

2007年、福知山市大江町毛原自治会と森林利用保全協定を結びました。京都府北部では初めての協定となり、「森林を核とした持続的な地域づくり」として自治体と共同して森林整備に取り組んでいます。

2009年度は、3回、延べ38名がボランティアとして参加しました。これまで、3年間で延べ146名が活動に参加しています。この活動により、年間0.9t相当のCO<sub>2</sub>の吸収が期待されています。



京都モデルフォレスト

### グリーンエネルギーフェスタ2009を開催

宇都宮テクノコンプレックスでは、2001年度から、環境フェスティバルを開催するなど、地域の市民を対象とした環境啓発活動を推進しています。栃木県の「工場・研究施設等の一般公開施設」として登録しており、企業や行政関係の方だけでなく、地元の小・中学校の環境学習施設として、ご利用いただいています。

2009年度は、NPO法人「PV倶楽部とちぎ」との共催で、グリーンエネルギーフェスタ2009を開催し、来場者135名と、多くのご家族に参加いただきました。ソーラー電池工作や紙すきなどの体験を通して、子供たちに楽しく環境について学んでいただきました。



牛乳パックで紙すき体験



ソーラー電池工作



ミニロッククライミング



木のバッグ工作



植物工場の野菜でジュースづくり

## 環境マネジメント

エスペックでは、環境への取り組みを企業経営の最重要課題の一つと位置づけ、継続的に環境マネジメントに取り組んでいます。

### 環境経営の基本方針

当社は、環境宣言「エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。いかに環境に役立つか、という視点こそ

エスペックたるゆえんである」に基づき、真摯に環境保護・保全・改善に取り組んでいます。

1996年4月に、全社環境基本方針を定め、以降世の中の動向、ステークホルダーのみなさまからの要請、自社の活動実績を踏まえ、改訂を重ねています。

## エスペック環境基本方針

### 環境宣言

エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。  
単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。  
いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである。

### 基本理念

エスペックは、環境保護・保全・改善が企業経営の最重要課題のひとつであることを認識します。  
環境試験装置、電子デバイス装置などを製造、販売、及びメンテナンスし、また受託試験を提供している企業であることを踏まえ、以下の方針に基づき、地球温暖化の防止、資源循環の促進、生物多様性の保全ならびに環境への汚染防止に努めるとともに、環境マネジメント活動、製品・サービスの継続的改善を図ります。

### 基本方針

1. 製品のライフサイクル全ての段階において、環境負荷低減と価値の向上を実現する技術と製品及びサービスを開発し、提供します。
2. 省エネルギー活動、自然エネルギーの活用、フロン対策などを通じ地球温暖化防止に努めます。
3. 有害物質管理を行い、環境への汚染防止に努めます。
4. 排出物を削減するとともにお客さまに対してリサイクルシステムを提案し、循環型社会の実現に寄与します。
5. 資材調達における環境負荷の低減を徹底するためにグリーン調達を行います。
6. 地球環境保全活動への支援及び積極的参加を通じ、社会の環境保全・生物多様性保全に貢献します。
7. 従業員とその家族・取引先および市民を対象に環境教育や啓発活動を実施します。
8. 環境関連法規制ならびに組織が同意したその他の要求事項などの遵守はもとより、必要に応じて自主基準を設定し、環境リスクマネジメントに取り組めます。

これらを実現するために、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・環境目標を設定し活動するとともに、環境マネジメントシステムを定期的に見直します。

2010年4月1日

代表取締役社長

進 信義

●この環境基本方針は組織で働く全ての人に  
周知するとともに、社外に公表します

## 環境マネジメント推進体制

2009年度は、**全社環境管理委員会**において、**環境目標を12項目設定し、目標達成にむけて全社一体となり推進しました。**

### ISO14001の認証取得

当社は、1996年の「環境管理」導入後、事業所単位での環境マネジメント活動と、ISO14001認証取得を積み重ね、継続して環境ガバナンスの強化を図ってきました。

2010年4月、グループ会社の**エスペックエンジニアリング(株)**および**エスペックテストセンター(株)**を吸収合併し、これに伴い、2010年度からは環境マネジメント活動も5社27事業所(右記上段)で推進しています。



### 全社環境管理委員会

環境マネジメント活動を推進する母体として、1996年4月から全社環境管理委員会を設置しています。委員長には社長、副委員長には環境管理担当役員が就任し、全社共通の目標管理、各種案件の審議などを行っています。ここでの決定が、それぞれの会社、事業所、事業部に展開され、活動が推進されます。2009年度は、環境目標の中でも特に、環境配慮型製品の開発を中心においた環境マネジメント活動を行いました。

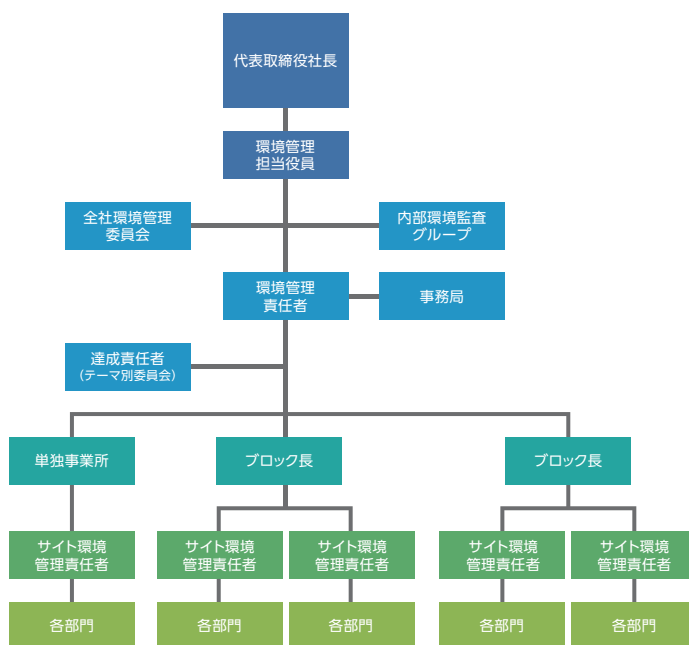


全社環境管理委員会

### ■環境マネジメントシステムの審査登録状況

社名	環境マネジメントシステム	取得年月日
エスペック株式会社	ISO14001	1996年12月26日
広州愛斯佩克環境儀器有限公司	ISO14001	2000年12月1日
エスペックテクノ株式会社	ISO14001	2003年3月12日
エスペック九州株式会社	ISO14001	2004年8月4日
エスペックミック株式会社	エコアクション21	2005年4月27日

### ■環境マネジメント活動の組織図(イメージ図)



環境中期計画

2009年度は目標をほぼ達成することができました。  
2010年度からは環境中期計画「エスペック2012グリーンプラン」を見直し、  
製品・サービスを機軸とした環境経営を推進していきます。

■ 2009年度 実績

重点テーマ	「エスペック2012グリーンプラン」2012目標値	2009年度における進捗評価
温暖化対策	1990年度比CO <sub>2</sub> 排出量 6%削減 排出量3470t	○
資源循環	① 国内全事業所の85%でゼロエミッション達成 ② 製品リサイクル 400台/年	○
有害物質	新製品(モデルチェンジ品含む)の使用部品を可能な範囲でRoHS規制対応とする	○
社会貢献	社会貢献活動(公益信託・森づくり・環境啓発)の拡大	○

2009年度 目標・実績

	目的・目標テーマ	環境目的(2009~2012年度)	環境目標(2009年度目標)	実績	評価	重点テーマ
グリーンプロダクト	1 環境配慮型製品開発	●LCA手法を活用し、環境配慮技術の開発を行います	●グリーンコンセプトモデルを具現化します ●「Eファクター」を新製品開発に展開します	実施	○	資源循環 温暖化対策
	2 環境配慮型製品拡販	●グリーンプロダクトラベル認定製品を年間6,100台以上販売します ●同製品の販売比率を75%以上にします	●グリーンプロダクトラベル認定製品を年間305台以上販売します ●同製品の販売比率を5%以上にします	193台 5.6%	△	
	3 お客さまの声	●お客さまの声をフィードバックし、環境に配慮した企業活動に活かします	●お客さまから環境に関する声を120件以上収集し、製品開発につながる事項を3件以上社内に提案します	収集 285件 提案 3件	◎	
	4 製品有害物質管理	●新製品(モデルチェンジ品含む)の使用部品におけるRoHS規制対応を目指します	●新製品についてRoHS非対応部品や素材を明らかにしたうえで、RoHS対応します	調査完了	○	有害物質
グリーンプロセス	5 CO <sub>2</sub> 削減	●CO <sub>2</sub> の排出量を1990年度比6%削減します(CO <sub>2</sub> 排出量:3,470t以下) (対象:生産部門・事務部門)	●CO <sub>2</sub> の排出量を3,868t以下にします(2008年度から739t削減)	3,647t (2008年度から960t削減)	○	温暖化対策
	6 製品リサイクル	●使用済み製品の回収を年間400台以上にします	●広域認定制度に基づく使用済み製品の回収を年間60台以上とします(目標値は、諸事情により期首100台から期中に見直し再設定しています)	70台	○	資源循環
	7 ゼロエミッション	●国内全事業所の85%以上において、ゼロエミッションを実現するとともに、全社平均のリサイクル率を99%以上とします(ゼロエミッション定義:リサイクル率99%以上)	●国内全事業所の65%(27事業所中18事業所)以上においてゼロエミッションを実現するとともに、全社平均のリサイクル率を98%以上とします	18事業所 99%	○	
	8 グリーン調達	●グリーン調達基準に基づく認定取引先からの部品調達率を80%以上とするとともに、「エスペック・エコ・スタンダード」既認定先のマネジメントレベルを向上させます	●グリーン調達基準に基づく認定取引先からの部品調達率80%を維持します ●「エスペック・エコ・スタンダード」既認定先のマネジメントレベルを向上させます	●81% ●RoHS規制の理解向上	○	有害物質
	9 全事業所の紙ゴミ削減	●全事業所での紙の購入量を2008年度比18%(130万枚)削減します ●全事業所での排出物の排出量を2008年度比15%(56t)削減します	●全事業所での事務用紙の購入量を2008年度比14%(100万枚)削減します ●全事業所での排出物の排出量を2008年度比10%(37t)削減します	●27% (194万枚)削減 ●21% (78t)削減	◎	資源循環
グリーンマインド	10 神戸R&Dセンターでの環境啓発	●神戸R&Dセンターの森とピオトープを活かした社員および市民への環境啓発を年間600名以上に実施します	●環境イベント等を通じた社員向け教育の実施で、400名以上に環境啓発します	628名	◎	
グリーンアクション	11 家庭のグリーン支援	●エコチャレンジファミリー制度の参加者比率を全社員の7%以上とします	●エコチャレンジファミリー制度の参加者比率を全従業員の4%以上とします	6.4%(60名)	○	温暖化対策 資源循環
	12 宇都宮テクノコンプレックスでの環境啓発	●宇都宮テクノコンプレックスのフューチャラボを活かした市民への環境啓発活動を実施し、来場者600名以上誘引します	●宇都宮テクノコンプレックスのフューチャラボを活かした市民への環境啓発活動を実施し、来場者450名以上誘引します	579名	◎	社会貢献

第4次環境中期計画「エスペック2012グリーンプラン」

2010年度、社会的要請の高まる「生物多様性」を第4次環境中期計画の重点テーマに追加しました。特に「温暖化対策」については、CO<sub>2</sub>削減目標の対象範囲を生

産部門・事務部門だけでなく、基本方針「製品・サービスを機軸とした環境経営の推進」にそった活動に広がります。このCO<sub>2</sub>削減目標については、2010年度中に策定します。

■ 第4次環境中期計画「エスペック2012グリーンプラン」改訂版 実施期間：2009年度～2012年度 基本方針：製品・サービスを機軸とした環境経営

重点テーマ	「エスペック2012グリーンプラン」2012目標値
温暖化対策	2010年度中に策定
資源循環	① 国内全事業所の85%でゼロエミッション達成 ② 製品リサイクル 400台/年
有害物質	新製品(モデルチェンジ品含む)の使用部品を可能な範囲でRoHS規制対応とする
社会貢献	社会貢献活動(製品の省エネ・公益信託・森づくり・環境啓発)の拡大
生物多様性	森づくり、ピオトープづくりを通じた生物多様性の保全活動促進

2010年度 目的・目標

	目的・目標テーマ	環境目的(2009～2012年度)	環境目標(2010年度目標)	重点テーマ	新規テーマ
グリーンプロダクト	1 環境配慮型製品開発	●LCA手法を活用し、環境配慮技術の開発を行います	●省エネ30%以上の新製品を2機種発売します	温暖化対策 資源循環 有害物質	生物多様性
	2 環境配慮型製品拡販	●グリーンプロダクトラベル認定製品の販売台数比率を20%以上とします ※1	グリーンプロダクトラベル認定製品の内、 ●2009年度発売の認定製品2機種の販売台数を年間186台以上とし販売台数比率を5%以上とします ●2010年度発売予定の認定製品3機種の販売台数および比率の目標値は、2010年度中に定めます		
	3 製品有害物質管理	●新製品(モデルチェンジ品含む)の使用部品におけるRoHS規制対応を目指します	●新製品2機種においてRoHS非対応部品や素材を明らかにしたうえで、可能な範囲でRoHS対応します		
グリーンプロセス	4 CO <sub>2</sub> 削減	●CO <sub>2</sub> 削減目標の対象範囲を生産部門・事務部門だけでなく、基本方針「製品・サービスを機軸とした環境経営の推進」にそった活動に広がります	CO <sub>2</sub> の排出量を、 ●4,140t以下(対象:生産部門・事務部門) ●2,400t以下(対象:受託試験) 合計6,540t以下(2009年度合計実績6,542t)にします	温暖化対策	生物多様性
	5 製品リサイクル	●使用済み製品の回収を年間400台以上にします	●使用済み製品の回収を年間120台以上にします	資源循環	
	6 ゼロエミッション	●国内全事業所の85%以上において、ゼロエミッションを実現するとともに、全社平均のリサイクル率を99%以上とします(ゼロエミッション定義:リサイクル率99%以上)	●国内全事業所の75%(22事業所中17事業所)以上においてゼロエミッションを実現するとともに、全社平均のリサイクル率を99.1%以上とします		
	7 グリーン調達	●グリーン調達基準に基づく認定取引先からの部品調達率を80%以上とするとともに、「エスペック・エコ・スタンダード」既認定先のマネジメントレベルを向上させます	●グリーン調達基準に基づく認定取引先からの部品調達率80%を維持します ●「エスペック・エコ・スタンダード」既認定先のA評価50%を65%以上にします	有害物質	
グリーンマインド	8 全事業所の紙ゴミ削減	●全事業所での紙の購入量を2008年度比18%(130万枚)削減します ●全事業所での排出物の排出量を2008年度比15%(56t)削減します	●全事業所での事務用紙の購入量を2008年度比23%(171万枚)削減します ※4 ●全事業所での排出物の排出量を2008年度比11%(44t)削減します	資源循環	生物多様性
	9 環境啓発 ※2	●みどりのカーテンやフューチャーラボなどを活かした社員および市民への環境啓発を年間900名以上に実施します ●エコチャレンジファミリー制度の参加者比率を全社員の10%以上とします	●社員および市民への環境啓発をみどりのカーテンを用い300名以上、フューチャーラボへの誘引を400名以上に実施します ●エコチャレンジファミリー制度の参加者比率を全従業員の7%以上とします	温暖化対策	
グリーンアクション	10 生物多様性保全 ※2	●森づくり、ピオトープづくりなどを通して生物多様性の保全活動を促進します	●神戸R&Dセンターの森とピオトープの植栽樹種を対象にした観察を通して生物多様性の保全状況の現状把握を行います		生物多様性

※1 第4次環境中期計画「エスペック2012グリーンプラン」見直しにともない、目標を改訂しました。  
 ※2 環境基本方針に「生物多様性の保全」を追加したことから2009年度目的・目標テーマの内、グリーンマインド、グリーンアクションの3テーマは、2010年度「環境啓発」と「生物多様性保全」の2テーマとしました。  
 ※3 2009年度目的・目標テーマの内「お客さまの声」は、2010年度は目的・目標テーマから維持管理テーマに変更しました。  
 ※4 事務用紙購入量は、景気回復に伴って2012年度目標に向け緩やかに増加していくと見込んでいます。

# グリーンプロダクト (環境に配慮した製品とサービス)

エスペックは、「環境配慮開発設計ガイドライン」を制定し、製品の省エネはもとより、リサイクルや化学物質の適正使用など総合的な視点から環境配慮型製品の開発・提供を進めています。

## 環境配慮型製品創出への取り組み

環境に配慮した製品の提供を通じて、お客さま先での環境負荷低減に努めています。

### 製品開発の基本的な考え方

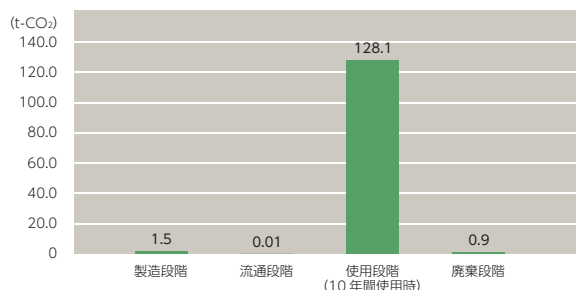
当社では、早くから地球環境保全に関心を持ち、製品の運転時の消費電力量低減や化学物質の適正使用、製品廃棄時における環境負荷低減などの問題に取り組んできました。その製品開発の姿勢は現在へと受け継がれ、当社の主力製品「環境試験器」が抱えている環境面での課題を明確にし、これらを解決する「環境配慮型製品」の開発を継続的に行っています。その基本的な指針となるのが「環境配慮開発設計ガイドライン」です。20年以上前に初版を制定以来、時代とともに改訂を重ね安全・品質・価格・環境・納期のすべてを満足する製品を開発することを基本にしています。これからも地球環境に配慮した製品の創出を通じて、社会やお客さまに貢献することを目標に活動していきます。

### 製品のライフサイクルにおける環境負荷

LCA(ライフサイクルアセスメント)による評価では、製品を製造する際に排出されるCO<sub>2</sub>とお客さま先で10年間使用する際に排出されるCO<sub>2</sub>を比較すると、代表器種(プラチナス4型)の場合、使用時のほうが製造時に比べて約85倍となり、影響が大きいことが分かっています。

製品使用時における消費電力の削減を製品開発の最重要課題として取り組んでいます。

■各ライフサイクルでのCO<sub>2</sub>排出量(PL-4K事例) ※エコモデルではありません



## 「環境配慮開発設計ガイドライン」の主な内容

- 省エネルギー・省資源化など、環境配慮設計において配慮すべき10項目を定め、それぞれに関する基本的な考え方を定義
- 開発設計フローと環境負荷設計との係わりを明確にしたフロー
- LCA手法の観点を踏まえ、エスペック独自の製品の環境効率指標「Eファクター」
- 環境配慮設計の際に用いるチェック項目
- 最新法規制に基づく環境配慮事項
- 使用推奨素材の指定、使用禁止物質を指定

### 「Eファクター」について

2006年度にLCA手法を導入し、現行主力製品における環境負荷について評価を開始しました。

LCA手法の導入当初は、省エネルギー等環境負荷項目についてのみ評価を行っていましたが、製品の機能面・性能面の評価も合わせた総合評価基準として、2007年度に製品の環境効率を示す指標「Eファクター」を立案しました。これらの取り組みを今後の製品開発へ活かしていく予定です。

$$E \text{ ファクター} = \frac{\text{品質機能ファクター (温度上昇降下時間等)}}{\text{環境負荷ファクター (CO}_2\text{)}}$$

※ Eファクター1.4以上を達成することを目標にしています。

## リサイクルへの取り組み

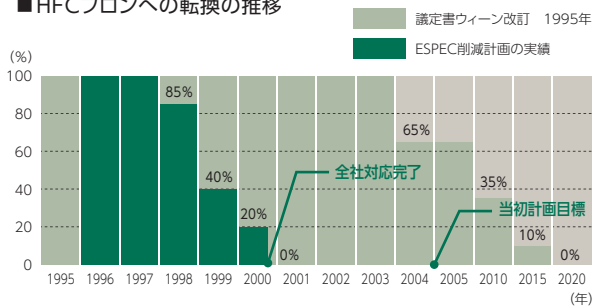
当社製品は、金属材料と樹脂材料が混在しており、廃棄の際の分別が困難で、廃棄物処分に負担をかけています。開発段階から製品のリサイクルを考え、

- 解体・分別しやすい構造
  - 樹脂部分の材質マーキング
- などを新製品・モデルチェンジ品に順次適用しています。

### 冷媒フロンへの取り組み

当社では、1995年のCFCフロン全廃規制に先駆け、1994年にCFCフロンを製品・工場から排除。次にオゾン層破壊係数「0」のHFCフロンへの転換を進めました。性能、信頼性等に関する問題を解決しながら、当初計画より早く、2000年に当社製品の冷凍回路のHFC転換を完了させています。

#### ■ HFCフロンへの転換の推移



### 環境配慮型製品

製品の環境性能をお客さまに分かりやすくお伝えするため、製品への環境ラベル表示をしています。

#### グリーンプロダクトラベル

2009年4月、環境配慮型製品の開発促進、製品に関する環境情報の積極的な公開を目指し、当社が定める環境配慮認定基準を満たした製品を「グリーンプロダクト」と認定し、環境ラベルを貼付する「グリーンプロダクトラベル」制度を開始しました。

「グリーンプロダクトラベル」は、国際標準化機構 (ISO) で定められた環境ラベルのうち、自己宣言型 (タイプII) の環境ラベル (ISO/JISQ14021) に相当するものです。「グリーンプロダクトラベル」の認定は、環境管理部が「グリーンプロダクトラベル」認定基準を満たしているか否かによって審査・承認し、貼付可否の判断を行います。



### グリーンプロダクトラベル認定基準

<判断対象範囲>

2009年4月以降に国内向けに発売される

- モデルチェンジ製品、シリーズ化製品、新規製品
- 現行機種 of 改善・改良品
- 個別受注対応品

<認定基準>

グリーンプロダクトラベルを認定する際の評価基準は、従来製品との消費電力を比較し、製品ごとに定める当社指定運転パターンにおいて、従来比15%以上の省エネを達成していること。

#### 2009年度グリーンプロダクト認定製品

##### 恒温 (恒湿) 器プラチナスKシリーズ

／エコモデル

従来比省エネ30%以上 (指定運転パターン)



製品型式	運転条件 ※	従来モデル消費電力 (kWh)	エコモデル消費電力 (kWh)	比較省エネ率
PL-3KT(H)-E	60℃	1.54	1.01	35%
PL-3KP(H)-E	20℃	1.40	0.84	40%
PU-3KT(H)-E	-40℃	1.61	0.98	39%
PU-3KP(H)-E				

(一部器種抜粋)

※無負荷・安定状態での測定値となります

##### 冷熱衝撃装置TSAシリーズ

／エコ運転機能搭載

従来比省エネ20%以上 (指定運転パターン)



製品型式	運転条件	試料		標準運転消費電力 (kWh)	エコ運転消費電力 (kWh)	比較省エネ率
		プラスチックモールドC (kg)	試料カゴ受 (kg)			
TSA-71S-A	高温さらし	5.0	1.5	14.1	11.2	21%
TSA-71H-W	125℃ 30分 (予熱140℃)	3.5	1.5	15.8	11.4	28%
TSA-101S-W	低温さらし	5.0	2.5	11.9	8.8	26%
TSA-101L-A	-40℃ 30分	2.5	2.5	7.7	6.2	20%
TSA-201S-W	(予冷-50℃)	20.0	6.0	16.7	12.2	27%
TSA-301L-W	6サイクル	24.0	7.0	16.7	12.3	26%

2010年度グリーンプロダクト認定製品

高温高湿器／エコモデル  
従来比省エネ**50%以上**  
(指定運転パターン)



製品型式	※ 運転条件	従来モデル 消費電力 (kWh)	エコモデル 消費電力 (kWh)	比較 省エネ率
PH-2KT-E	60℃	1.18	0.41	65%
	85℃/85%RH	1.29	0.48	63%
PH-3KT-E	60℃	1.19	0.45	62%
	85℃/85%RH	1.30	0.55	58%
PH-4KT-E	60℃	1.91	0.54	72%
	85℃/85%RH	2.16	0.90	58%

※無負荷・安定状態での測定値となります

冷熱衝撃装置TSAシリーズ  
／Eタイプ

現行タイプ比省エネ**30%以上**  
(指定運転パターン)



製品型式	運転条件	試料		現行タイプ (エコ運転 機能搭載無)	Eタイプ (エコ自動 運転機能付)	比較 省エネ率
		プラスチック モールドC (kg)	試料カゴ 試料カゴ受 (kg)	消費電力 (kWh)	消費電力 (kWh)	
TSA-102E-W	高温さらし 125℃ 30分 (予熱145℃) 低温さらし -40℃ 30分	5.0	2.5	13.0	8.2	37%
TSA-202E-W	(予冷:現タイプ:60℃/ Eタイプ:-55℃) 復帰時間5分以内 6サイクル	10.0	6.0	17.6	11.6	34%

恒温(恒湿)室ビルドインチャンバー  
／Eシリーズ

従来比省エネ**30%以上**  
(指定運転パターン)



製品型式	※ 運転条件	従来Hシリーズ TBL-4HW (ACU10搭載) 消費電力(kWh)	Eシリーズ TBL-4EW (ACU10E搭載) 消費電力(kWh)	比較 省エネ率
TBL-4EW	-20℃	3.89	2.12	46%
	-10℃	3.82	1.79	53%
	10℃/50%RH	5.15	3.44	33%
	20℃/30%RH	6.38	2.48	61%
	20℃/80%RH	3.29	2.10	36%
	28℃/50%RH	5.98	2.31	61%
	40℃/95%RH	7.43	3.76	49%

※無負荷・安定状態での測定値となります

化学物質の適正使用

危険有害化学物質排除に向けて、  
自主的にRoHS指令対応部品への  
代替化を進めています。

危険有害化学物質排除に向けて

製品設計にあたり使用禁止物質を指定し、有害物質  
の使用を削減してきました。

昨今話題となっているRoHS指令における6品目の有  
害物質については、2010年3月末現在、当社製品は  
RoHS規制の対象製品ではありませんが、2013年度の  
全廃に向けて、自主的にRoHS対応部品への代替化を  
進めています。

PRTR法(化学物質排出移動量届出制度)への対応

当社では、約400種類の危険有害化学物質を使用し  
ています(当社基準に基づく選定)。これらに対し、  
MSDSの配備、使用・保管に関する手順書の整備、より  
安全性の高い物質への置き換えの促進など適正な管理  
を実施しています。化学物質の移動量管理については、  
自主管理基準で1kg以上を集計単位として管理してい  
ます。2009年度、報告義務のある1t以上の取扱量とな  
る物質はありませんでした。

アスベスト対応

当社では、過去の製品において断熱材やパッキンの  
一部にアスベスト含有部材を使用していた時期があり  
ます。2006年6月末までにすべての製品においてアス  
ベスト含有部材の使用を取り止めております。

従来から当社製品をご利用いただいているお客さま  
に対しては、当社製品のアスベストに関する情報を、  
ホームページや個別対応にて積極的に情報公開してい  
ます。



# グリーンプロセス (環境に配慮した工程)

グリーンプロセスとは、事業活動のすべてのプロセスにおいて、環境に配慮することをいいます。エスペックでは、各拠点・部門で自分たちにできることを主体的に考え、環境負荷低減に向けた取り組みを推進しています。

## 事業活動における環境配慮の取り組み

幅広い範囲で環境負荷低減に向けた改善を進めています。

### サービスでの取り組み

#### ●製品回収

環境大臣より広域認定制度の認定を受け、「製品リサイクルサービス」を開始しました。このサービスは、お客さま先で使用済みとなった当社の環境試験器について、お客さまと「産業廃棄物処理委託契約」を締結し、有償にて製品を回収し、再資源化するものです。これにより、お客さまの廃棄手続きにかかる負担の軽減を図るとともに、廃棄物を適正にリサイクル処理していきます。2009年度は使用済み製品を70台回収しました。

#### ●フロン回収

1995年度から修理・廃棄時のフロン回収を行っています。「フロン回収・破壊法」に基づく第一種フロン類回収業登録を全国の自治体にて行っています。回収した冷媒フロンは、フロン類破壊処理業者にて高温プラズマ破壊等の処理を行い無害化します。これらの回収量は、約30t(2010年3月現在累計)にもおよびます。

#### ●製品輸送時の取り組み

地球温暖化を防ぐためにモーダルシフト(鉄道輸送の活用)を始めています。大阪を起点に、北海道、東北、九州、東京といった長距離輸送において、トラック輸送から貨物輸送への切り替えを行っています。関係各社のご協力のもと2009年度の1年間で約17t相当、累計で約65t相当のCO<sub>2</sub>削減効果を得ることができました。

### 事業所での取り組み

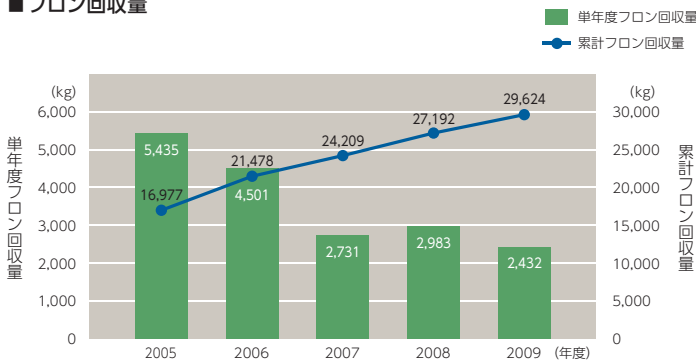
#### ●ゼロエミッションへの挑戦

各事業所におけるゼロエミッション(リサイクル率99%以上)を目指しています。2010年3月現在、全28事業所のうち、約6割にあたる18事業所においてゼロエミッションを達成しました。全事業所における平均リサイクル率は99.0%に達しています。

#### ●事務用紙の削減

大切な森林資源を守るために、事業所における紙の削減に取り組んでいます。2009年度は、大幅な受注減の影響などもありましたが、使用済み用紙の活用や、製品の取扱説明書のCD-ROM化の定着を進めることで、事務用紙の購入量は527万枚となり、2008年度の721万枚から約194万枚(27%)削減することができました。

■フロン回収量

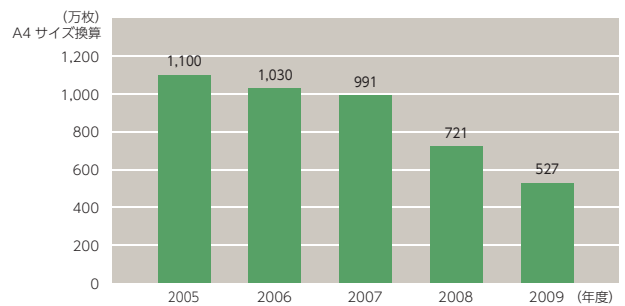


### 物流での取り組み

#### ●資材調達時の取り組み

取引先さまと共同して資材・部品納入に伴う梱包材、緩衝材を削減するため、通い箱化を進めています。また、緩衝材などは、社内で再使用する取り組みにより、プラスチックの量を削減することができました。

■事務用紙購入量



#### ●社有車のガソリン削減

社有車の使用に伴うCO<sub>2</sub>の排出量は全体の約2割を占めています。公共交通機関の利用、社有車台数の見直し、低燃費車への切り替え、車両タイヤ圧の点検などの取り組みにより、2009年度ガソリン・軽油総使用量は374klと、2008年度から28kl(7.5%)削減することができました。CO<sub>2</sub>換算では約64tに相当します。

## グリーンマインド (環境教育)

環境を守り、より良いものにしていくためには、社員一人ひとりが環境のことをよく理解することが重要です。エスペックでは、自然の大切さを知り、守る心を育む環境教育を目指し、事業所内での植樹活動や、ビオトープの設置などを行っています。

### 社内における環境啓発活動

事業所における植樹活動や環境関連行事の開催を通じて、社員の環境啓発に取り組んでいます。

#### エスペック環境ウィーク

環境保全・改善に対する意識の高揚を目的として、1997年以来、6月5日の「世界環境デー」を含む週を「エスペック環境ウィーク」に設定しています。全従業員、取引先さま、ならびにそのご家族などを対象に、環境啓発に関わるさまざまな取り組みを行っています。

2009年度は、全社環境大会の開催および、「環境改善提案」、「環境写真コンテスト」などの各種表彰や地域清掃活動などを実施しました。

#### 全社環境大会

環境啓発の一環として「エスペック環境ウィーク」に、全社環境大会を開催しています。2009年度は、従業員および主要な取引先さまの方々、約100名が参加し、社長よりエスペックの製品・サービスを機軸とした環境経営についての発表と、外部講師による講演を行いました。



全社環境大会

#### 環境社会検定試験 (eco検定) の取得奨励

幅広い知識をもって環境問題に取り組む人づくりを目的としたeco検定の取得を奨励しています。2010年度は管理職者100%の合格、2012年度には全社員50%の合格をめざしています。

#### 環境ニュース

社員向けの環境啓発活動の一環として、「環境ニュース」を定期発行しています。環境関連行事や各事業所の環境管理活動の事例紹介などを行っています。

### エスペックの森

「エスペックの森」は、(財)国際生態学センター研究所長(横浜国立大学名誉教授)宮脇 昭博士のご指導のもと、幼苗植栽手法により土地本来の潜在自然植生を利用した「ふるさとの木による、ふるさとの森づくり」を実践したものです。

2001年の神戸R&Dセンターでの植樹祭を皮切りにこれまでに延べ1,100人の手により、約31,000本の苗木を事業所敷地内に植樹しています。これらの取り組みにより、年間30t相当のCO<sub>2</sub>の吸収が期待されています。



神戸R&Dセンター／定点観測

### ビオトープ

神戸R&Dセンター内にあるビオトープ(生物生息空間)は、その土地本来の植物(在来種)を厳選して植栽しており、メダカが泳ぐ清らかなせせらぎには、トンボやゲンゴロウが飛来するなど、神戸市本来の自然生態系が形づくられてきています。

2009年度は、ビオトープの維持・管理に社員自ら取り組み、延べ513名が雑草の除去作業などを行いました。また、「ビオトープを楽しむ」レクリエーションイベントを開催し、社員とご家族60名に、自然を「見て、触れて、感じる」ことにより、自然との共生や環境保全について学んでいただきました。今後も、環境啓発の場として活用していきます。



神戸R&Dセンター／ビオトープ

## エスペック環境ウィーク 2009 年度上位入賞者作品

エスペックでは、2008年度から環境川柳・写真・ポスターコンテストなどを実施。従業員はもとより、取引先さまやそのご家族からもご応募いただいています。

環境川柳部門 テーマ：リサイクル

大賞

### 続けよう 未来のために リサイクル

川勝 一正さん 株式会社精和工業所  
第2製造部

環境写真部門 テーマ：身近な環境

優秀賞



「汐留の春」  
～浜離宮庭園から  
CONRAD TOKYOと電通本社を望む～

中山 晃宏さん  
サンライズ工業株式会社  
代表取締役

優秀賞



「近所の仲間達」  
清水 剛さん  
エスペック株式会社  
電子デバイス装置設計2部  
システム設計2グループ

優秀賞



「菜の花畑」  
前田 照隆さん  
エスペック株式会社  
内部監査グループ

環境ポスター部門 テーマ：地球温暖化／資源循環／汚染の防止／自然の保護

大賞



「緑のカーテンを広げよう！」  
四方 沙耶さん  
エスペック株式会社  
四方 浩昭さんのご家族

優秀賞



「水と緑と生命と」  
森田 訓行さん  
エスペック株式会社  
生産技術部 製品技術グループ

佳作



「地球温暖化防止」  
四方 浩昭さん  
エスペック株式会社  
生産管理部  
製造工程管理グループ

佳作



「生ゴミリサイクルで野菜を育てよう！」  
四方 かなみさん  
エスペック株式会社  
四方 浩昭さんのご家族

# グリーンアクション (社会貢献)

エスペックは、公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」、  
「新エネルギー・太陽光発電の研究」「みどりのカーテンの普及  
活動」など広く環境啓発・貢献活動を推進しています。

## 社外における環境啓発・貢献活動

学術研究の支援や小学校へ出張講座など  
広範囲で環境支援活動を行  
っています。

### 公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」

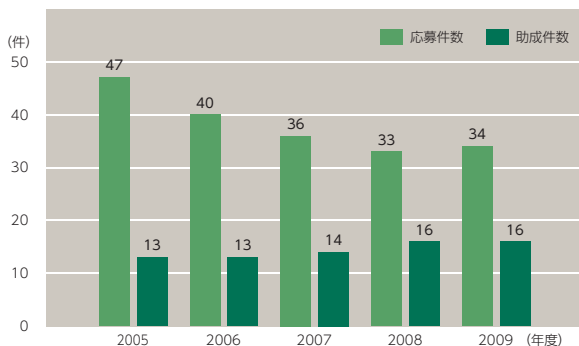
創業50周年となる1997年、自らの社会的責任を全  
うする事業として公益信託「エスペック地球環境研究・  
技術基金」を設置しました。

地球環境保全に関する調査研究や技術開発などに對  
し、資金援助を実施しており、これまでに101団体に對  
し、総額5,700万円の助成を行いました。また、2008年  
度からは、対象範囲を緑化の教育・啓発にも拡大し、助  
成金も増額しました。



第12回公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」授与式

### ■ 応募・助成件数



### ■ 研究テーマの紹介 (16テーマより抜粋)

- 外来種の遺伝的多様性解析法の開発と環境保全への応用：  
ハクビシンをモデルにした外来種対策の新展開
- 越境大気汚染物質の到達量評価のための多元素同位体比分析
- さぬきうどん製造廃水の経済的浄化システムの開発
- 地球温暖化によって台風水蒸気の起源海域はどう変わったか？
- エネルギー環境教育による人の行動変化がもたらす  
環境負荷低減効果の評価
- 馬洗川入河口ワンドにおける水辺植物の回復

### 新エネルギー・太陽光発電の研究

当社は、NEDO (新エネルギー・産業技術総合開発機  
構)との共同事業を通じ、太陽光発電のフィールドテスト  
を実施しています。1995年に宇都宮テクノコンプレッ  
スへ40kW相当の太陽光発電施設を初めて設置して以  
来、2006年度には神戸R&Dセンター (50kW相当)と  
福知山工場 (50kW相当)にそれぞれ新たに設置し、主  
要な生産拠点・研究拠点において太陽光発電の長期信  
頼性を研究するための基礎データの採取を実施してい  
ます。2009年度  
は3拠点の太陽光  
発電により、約50t  
のCO<sub>2</sub>を削減する  
ことができました。



福知山研修センター

### 家庭での環境活動の支援

2007年度からスタートした「エスペック・エコ・チャ  
レンジ・ファミリー制度」は、社員およびその家族の環境活  
動 (エコ・ライフ) を支援する制度です。家庭での省エ  
ネ、ごみの削減、エコ通勤 (自転車通勤) などの実績を環  
境家計簿に記録・報告し、成果に応じてエコポイントを  
付与しています。2009年度は60家族の12ヶ月間  
(2009年4月～2010年3月)の活動成果として、合計5t  
のCO<sub>2</sub>を削減することができました。

**みどりのカーテン普及・啓発活動**

当社は、ゴーヤを使ったみどりのカーテンを普及・啓発する活動を2007年度より積極的に行っています。みどりのカーテンにより夏の日差しを和らげ、葉の蒸散作用により室温の上昇を抑えることができます。主要事業所におけるみどりのカーテンの栽培・育成のほか、2009年度は以下の活動を行いました。

● **みどりのカーテン植付出張講座**

小学校に出向き、紙芝居で地球温暖化の話やみどりのカーテンの効果を解説し、実際にゴーヤの植付を体験していただきました。



福知山市立天津小学校のみどりのカーテン

● **みどりのカーテン効果測定出張講座**

小中学校においてサーモグラフィによるみどりのカーテン効果測定の体験授業を実施しました。



小学校での講座風景

● **各種環境イベント・セミナーでの講演**

みどりのカーテンの活動事例の紹介やゴーヤソング、ゴーヤダンスの指導などを通じ、広くみどりのカーテンの普及・啓発活動を行っています。

● **第1回ゴーヤ先生養成セミナーの開催**

「エスペックみどりの学校」を開校し、みどりのカーテン育成リーダー養成セミナーを開催しました。

● **みどりのカーテン啓発DVDの制作協力**

「福知山環境会議」会員企業として、「ゴーヤで涼しさ日本一のまち福知山」の実現に向けたDVDの制作支援を行いました。



「エスペックみどりの学校」  
第1回ゴーヤ先生養成セミナー



みどりのカーテン啓発ダンス

**社外からの評価**

積極的な環境への取り組みが  
高く評価されています。

**環境経営度調査**

日本経済新聞社主催の「2009年度環境経営度調査」で、70位に評価されました。この調査は、企業の環境対策を総合的に評価することを目的に、各企業のアンケート結果をもとに「環境経営度スコア」を作成し、日本経済新聞がランキング形式で紙面発表しているものです。2009年度は、全社的な温暖化対策とこれに伴う削減目標の大幅達成、省エネ製品開発とLCAの実施が高く評価され、2008年度の101位から順位を上げる結果となりました。

■ **環境経営度調査実績**

年度	ランク
2009年度	70位
2008年度	101位
2007年度	86位
2006年度	154位
2005年度	67位

**「兵庫県電力利用合理化推進協議会 会長表彰」の受賞**

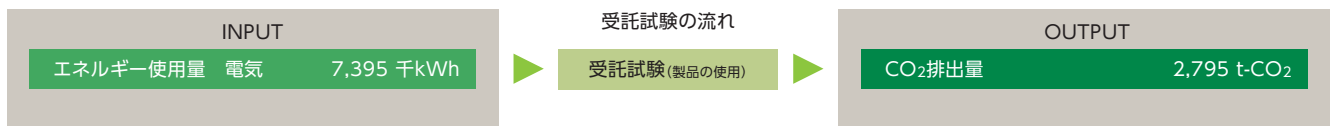
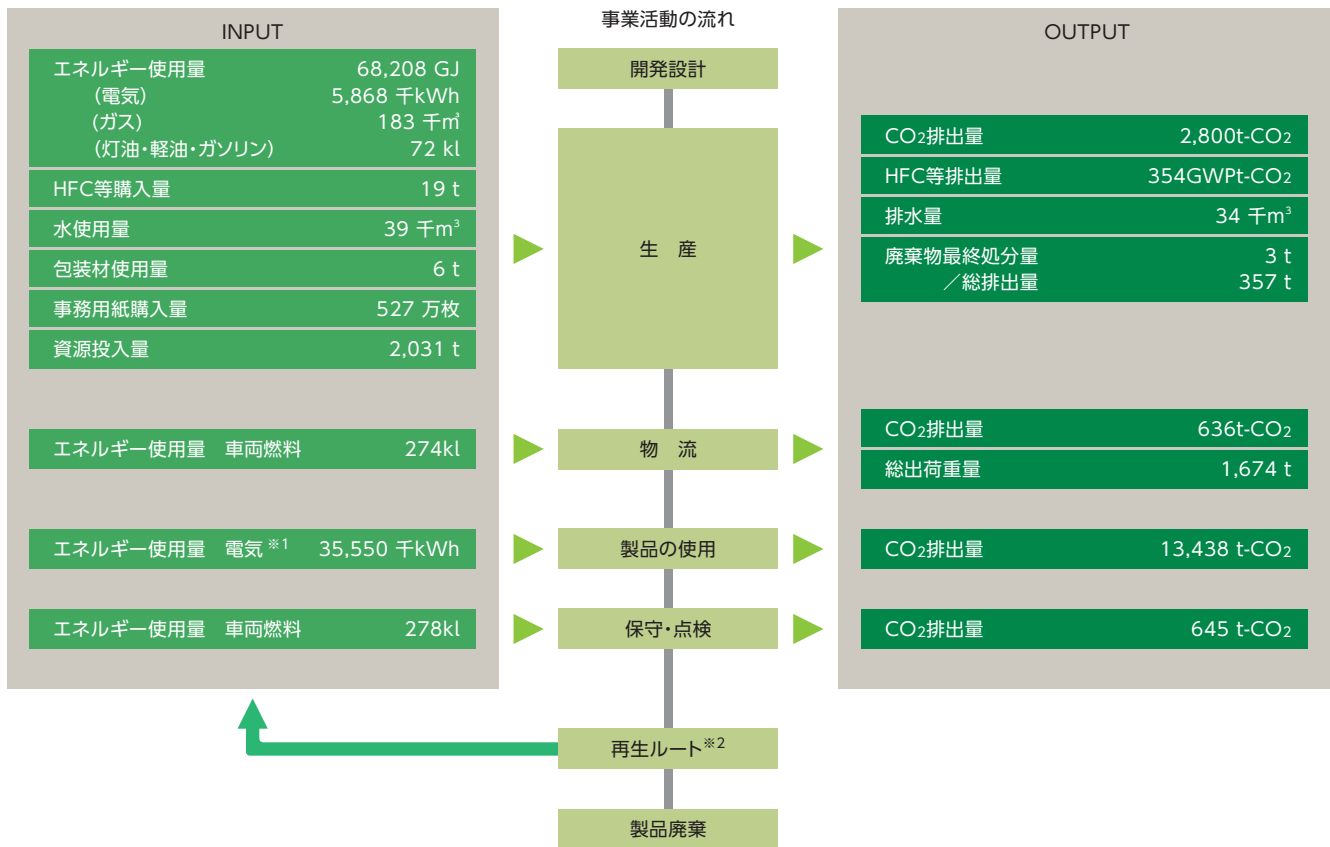
2010年6月、神戸R&Dセンターは兵庫県電力利用合理化推進協議会から会長表彰を受賞しました。これは、電力の効率的な使用や省エネルギー対策に取り組み、成果をあげたことに対して、表彰されたものです。

● **最近の受賞歴**

- 2009年6月 兵庫県環境にやさしい事業者賞
- 2009年5月 日本ビオトープ協会顕彰委員長賞
- 2008年10月 平成20年度ごみ減量優良建築物市長表彰 (大阪市)

# 事業活動のマテリアルバランス

## ■ 2009年度実績



※1 製品の使用に伴うエネルギーの使用は2009年度主力製品出荷実績からの試算  
 ※2 エスペック製品リサイクルサービス

## ■ 算出根拠

換算係数	熱量換算	CO <sub>2</sub> 換算
①電力	千kWh=9.82GJ	千kWh=0.378t-CO <sub>2</sub>
②長田野ガス	千m <sup>3</sup> =45.0GJ	千m <sup>3</sup> =2.29t-CO <sub>2</sub>
③都市ガス	千m <sup>3</sup> =41.1GJ	千m <sup>3</sup> =2.11t-CO <sub>2</sub>
④LPガス	千m <sup>3</sup> =100.0GJ	千m <sup>3</sup> =5.98t-CO <sub>2</sub>
⑤灯油	1kl=36.7GJ	1kl=2.49t-CO <sub>2</sub>
⑥軽油	1kl=38.2GJ	1kl=2.62t-CO <sub>2</sub>
⑦ガソリン	1kl=34.6GJ	1kl=2.32t-CO <sub>2</sub>

「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」(環境省)を参考に設定

# 実績データ

## ■ サイト別データ(2009年度実績)

	本 社	福知山工場	宇都宮 テクノ コンプレックス	神戸R&D センター	エスペック エンジニアリング 本社	全国の営業所・ 事業所計 21事業所合計	横浜R&D センター /豊田試験所	ISO14001 一括取得対象 28事業所
地域区分	商業地域	工業専用地域	工業専用地域	準工業地域	準工業地域	—	—	—
主な業務・生産物	環境試験装置・ 電子デバイス装置 の販売、開発、設計 ならびに資材・ 部品の購買業務	環境試験装置・ 電子デバイス装置	電子デバイス 装置	技術開発拠点 および受託試験	環境試験装置・ 電子デバイス 装置等の メンテナンス (点検・保守)	環境試験装置・ 電子デバイス 装置等の メンテナンス (点検・保守)	受託試験 製品レンタル	—
排出物の発生量(総量)*	12.4t	241.3t	11.4t	17.2t	6.6t	63.3t	4.8t	357.4t
産業廃棄物量	0.03t	49.3t	6.4t	14.3t	5.2t	51.6t	2.9t	130t
事業系一般廃棄物量	12.3t	37.9t	1.9t	0.8t	1t	9.6t	1.7t	65.6t
有価物	0.0t	153.3t	2.9t	1.9t	0.0t	0.0t	0.0t	158.2t
電力	43万kWh	300万kWh	194万kWh	199万kWh	16万kWh	48万kWh	523万kWh	1326万kWh
事務用紙購入量	129万枚	141万枚	10万枚	26万枚	24万枚	177万枚	16万枚	527万枚
ガス使用量	32,179m <sup>3</sup>	115,235m <sup>3</sup>	0m <sup>3</sup>	33,998m <sup>3</sup>	31m <sup>3</sup>	1,758m <sup>3</sup>	0m <sup>3</sup>	183201m <sup>3</sup>
社有車保有台数	9 台	5 台	10 台	5 台	20 台	129 台	15 台	193 台
うち、ハイブリッドカー	2 台	2 台	2 台	0 台	1 台	11 台	3 台	21 台
燃料使用量(ガソリン)	17kl	5kl	17kl	6kl	23kl	266kl	10kl	347kl
燃料使用量(軽油)	—	—	—	—	—	—	—	—
走行距離	269,828 km	85,493 km	204,368 km	78,450 km	248,396 km	2,778,088 km	146,924 km	3,811,547 km
遵法	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合
地域からの苦情	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし

\* お客さま先での作業時発生分を含む

## ■ 2009年度 全社PRTR実績

(t)

第1種指定化学物質の名称	トルエン	ヒドラジン	エチレングリコール
第1種指定化学物質の号番号	227	253	43
年間取扱量	0.03	0.03	0.04
製品への含有分(自主測定項目)	—	—	—
リサイクル分(売却分)(自主測定項目)	—	—	—
排出量	イ) 大気への年間排出量	0.03	—
	ロ) 公共用水域への年間排出量	—	—
	ハ) 当該事業所における土壌への排出 二)以外	—	—
	ニ) 当該事業所における埋立処分	—	—
移動量	イ) 下水道への移動	—	0.03
	ロ) 当該事業所の外への移動 イ)以外	—	0.04

# 環境会計

## ■ 2009年度環境会計

集計範囲：エスペック株式会社、エスペックエンジニアリング株式会社  
 対象期間：平成21年4月1日～平成22年3月31日

### ■ 環境保全コスト

(千円)

分類	主な取り組みの内容	2008年度		2009年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額
(1) 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト（事業エリア内コスト）		10,050	50,609	12,516	32,748
内訳	①公害防止コスト	0	1,417	—	713
	②地球環境保全コスト	10,050	33,962	11,150	24,566
	③資源循環コスト	—	15,230	1,366	7,469
(2) 生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト（上・下流コスト）		—	—	—	—
(3) 管理活動における環境保全コスト（管理活動コスト）	ISO14001運用経費／ISO更新審査	—	64,564	—	57,818
(4) 研究開発活動における環境保全コスト（研究開発コスト）	環境配慮型製品・技術の開発	—	314,939	—	492,050
(5) 社会活動における環境保全コスト（社会活動コスト）		457	17,141	—	13,972
(6) 環境損傷に対応するコスト（環境損傷コスト）		—	—	—	—
合計		10,507	447,253	12,516	596,588

(千円)

項目	2008年度	2009年度
当該期間の投資額の総額	264,670	241,720
当該期間の研究開発費の総額	2,101,811	845,705

### ■ 環境保全対策に伴う経済効果

(千円)

効果の内容	金額
収益	リサイクルにより得られた収入額 3,611
費用削減	省エネルギーによる費用削減 16,988

### ■ 環境保全効果

効果の内容	環境保全効果を表す指標		
	指標の分類	指標の値	
		2008年度	2009年度
(1) 事業活動に投入する資源に関する効果	電力の使用	2008年度	2009年度
	発生総量(万kWh)	700	587
	削減量(対前年比)(万kWh)	138.5	113.3
	原単位(万kWh/億円)	2.7	3.7
	原単位での削減率(対前年比)(%)	-5.2%	-34.5%
(2) 事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果	廃棄物の排出	2008年度	2009年度
	発生総量(t)	8.8	2.6
	削減量(対前年比)(t)	4.7	6.2
	原単位(kg/億円)	34.4	16.3
	原単位での削減率(対前年比)(%)	17.8%	52.6%
	売上高(単純合算)(億円)	255.6	159.3

注1. -付きの値は増加分

注2. 電力は、生産部門+事務所電力の合計

注3. 廃棄物は、事業所内で発生した埋立廃棄物の合計



## 会社概要 (平成22年3月31日現在)

創業	昭和22年(1947年)7月25日
設立	昭和29年(1954年)1月13日
資本金	68億9,500万円
証券市場	東京証券取引所 第一部 大阪証券取引所 第一部
発行済株式総数	23,781,394株
従業員数	1,295名(連結) 656名(単独)

## 営業概況 (平成22年3月期)

	(単位:百万円)	
	連結	単独
売上高	23,775	12,340
営業利益	△738	△1,716
経常利益	△565	△1,178
当期純利益	△2,630	△1,537
総資産	34,837	28,221
純資産	26,637	22,555

## 事業所 (平成22年4月1日現在)

本社  
530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6  
Tel:06-6358-4741 Fax:06-6358-5500

首都圏オフィス  
105-0004 東京都港区新橋5-14-10  
新橋スクエアビル6F  
Tel:03-6402-3591 Fax:03-6402-3594

大阪オフィス  
572-0072 大阪府寝屋川市太間東町15-8  
Tel:072-834-1191 Fax:072-834-7755

宇都宮テクノコンプレックス  
321-3231 宇都宮市清原工業団地23-1  
Tel:028-667-8730 Fax:028-667-8733

神戸R&Dセンター  
651-1514 神戸市北区鹿の子台南町5-2-5  
Tel:078-951-0960 Fax:078-951-0967

福知山工場  
620-0853 京都府福知山市長田野町1-7  
Tel:0773-27-3131 Fax:0773-27-1132

仙台営業所  
981-3135 仙台市泉区八乙女中央2-2-22  
Tel:022-218-1891 Fax:022-218-1894

つくば営業所  
305-0035 茨城県つくば市松代1-11-10  
Tel:029-854-7805 Fax:029-854-7785

熊谷営業所  
360-0833 埼玉県熊谷市広瀬240-3  
Tel:048-520-2360 Fax:048-525-7865

西東京営業所  
186-0011 東京都国立市谷保6049  
Tel:042-501-2571 Fax:042-501-2573

静岡営業所  
422-8036 静岡市駿河区敷地2-26-10  
Tel:054-237-8000 Fax:054-238-3441

名古屋営業所  
465-0095 名古屋市名東区高社2-250  
Tel:052-777-2551 Fax:052-777-2575

金沢営業所  
920-8203 金沢市鞍月3-115  
Tel:076-268-1891 Fax:076-268-1893

滋賀営業所  
520-3234 滋賀県湖南市中央1-44-1  
市兵衛ビル1F  
Tel:0748-72-5077 Fax:0748-72-5070

広島営業所  
731-0103 広島市安佐南区緑井1-12-25  
Tel:082-830-5211 Fax:082-876-5050

福岡営業所  
812-0006 福岡市博多区上牟田1-28-16  
コスモプレインビルE室  
Tel:092-471-0932 Fax:092-474-3500

東京サービスプランチ  
146-0083 東京都大田区千鳥1-11-4  
Tel:03-3752-8601 Fax:03-3752-8625

厚木サービスプランチ  
259-1117 神奈川県伊勢原市東成瀬36-5  
Tel:0463-94-9433 Fax:0463-94-6542

津サービスプランチ  
514-0104 津市栗真小川町620  
Tel:059-233-5400 Fax:059-233-5411

兵庫サービスプランチ  
674-0051 兵庫県明石市大久保町大窪926-1  
Tel:078-938-1913 Fax:078-938-1914

新居浜サービスプランチ  
792-0812 愛媛県新居浜市坂井町1-1-32  
Tel:0897-31-3160 Fax:0897-36-3180

宇都宮試験所  
321-3231 宇都宮市清原工業団地23-1  
(宇都宮テクノコンプレックス内)  
Tel:028-667-8735 Fax:028-667-8738

豊田試験所  
471-0844 愛知県豊田市聖心町3-44-1  
Tel:0565-25-3364 Fax:0565-25-3365

刈谷試験所  
448-0034 愛知県刈谷市神明町1-3  
Tel:0566-62-8380 Fax:0566-62-8385

神戸試験所  
651-1514 神戸市北区鹿の子台南町5-2-5  
(神戸R&Dセンター内)  
Tel:078-951-0961 Fax:078-951-0967

## エスベックグループ〈国内〉

(平成22年4月1日現在)

エスベックテクノ株式会社  
658-0053 神戸市東灘区住吉宮町5-10-18  
Tel:078-811-3211 Fax:078-841-8329

エスベック九州株式会社  
802-0062 北九州市小倉北区片野新町2-6-15  
Tel:093-941-1731 Fax:093-921-2822

エスベックミック株式会社  
480-0138 愛知県丹羽郡大口町大御堂1-233-1  
Tel:0587-95-6369 Fax:0587-95-4833

## エスベックグループ〈海外〉

(平成22年4月1日現在)

ESPEC NORTH AMERICA, INC. (アメリカ)  
4141 Central Parkway, Hudsonville, MI 49426, U.S.A.  
Tel:(t) 616-896-6100 Fax:(t) 616-896-6150

ESPEC EUROPE GmbH (ドイツ)  
Dachauer Strasse 11, D-80335, München, Germany  
Tel:(49) 89-1893-963-0 Fax:(49) 89-1893-963-79

SHANGHAI ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT CORP. (中国)  
1518 Hao, Hua xin Zhen Hua zhi Road, Qing pu Qu, Shanghai, 201708, P.R. China  
Tel:(86) 21-69791178 Fax:(86) 21-69791213

GUANGZHOU ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT CO., Ltd. (中国)  
Yongfa Avenue 6, Huadu Qu, Guangzhou, Guangdong-province, 510800, P.R. China  
Tel:(86) 20-86881537 Fax:(86) 20-86881530

ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT (SHANGHAI) CO., LTD. (中国)  
F5, ShenHua Financial Building, NO 1 NingBo Road, Huangpu District, Shanghai, 200002, P.R. China  
Tel:(86) 21-51036677 Fax:(86) 21-63372237

ESPEC TEST TECHNOLOGY (SHANGHAI) CO., LTD. (中国)  
Room 106, Building 8, No. 3000 Longdong Avenue, Pudong New Area, Shanghai 201203, P.R. China  
Tel:(86) 21-68798008 Fax:(86) 21-68798088

ESPEC (CHINA) LIMITED (香港)  
Suite 618, 6th F, Ocean Centre, Harbour City, Kowloon, Hong Kong  
Tel:(852) 2620-0830 Fax:(852) 2620-0788

ESPEC KOREA CORP. (韓国)  
452-3, Hyeongok-Ri, Chongbuk-Myeon, Pyeongtaek-City, Gyeonggi-do 451-831, Korea  
Tel:(82) 31-686-8523 Fax:(82) 31-686-8526

ESPEC (MALAYSIA) SDN. BHD. (マレーシア)  
No.10-1, Jalan Dagang SB 4/2, Taman Sungai Besi Indah, 43300, Seri Kembangan, Selangor Darul Ehsan Malaysia  
Tel:(60) 3-8945-1377 Fax:(60) 3-8945-1287

■ CSRレポート企画・編集発行

エスベック株式会社 経営企画本部 CSRレポート編集委員会

■ CSRレポートについてのお問い合わせは

エスベック株式会社 総務人事部 総務グループ  
Tel:06-6358-5005 Fax:06-6358-6382  
E-Mail:csr@espec.co.jp

## エスペック株式会社

530-8550 大阪市北区天神橋 3-5-6  
Tel:06-6358-4741 Fax:06-6358-5500  
<http://www.espec.co.jp/>

未来が変わる。日本が変わる。  
チャレンジ **25**  
エスペックは地球温暖化防止国民運動、  
チャレンジ25キャンペーンに参加しています。

